

日本語ブックレット2004

雑誌名	日本語ブックレット
巻	2004
ページ	1-90
発行年	2006-03
URL	http://doi.org/10.15084/00001629

日本語ブックレット 2004

平成18年3月

独立行政法人
国立国語研究所

はじめに

『日本語ブックレット 2004』は、日本語に関する動向や資料を分かりやすい形で広く提供することを目指して編集したものです。平成 15 年度より始めた試作、検討を経て、今年度より毎年、電子版として定期刊行することとなりました。

この『日本語ブックレット』は、平成 16 年（2004 年）の日本語をめぐる動きを図書、雑誌、新聞記事等の資料からまとめたもので、第 1 部はこれらの資料に見られる平成 16 年（2004 年）の動向の概観、第 2 部は、これらの資料から採録した日本語に関する情報の目録となっています。

国立国語研究所では、日本語研究に関する網羅的な文献目録等を掲載した『国語年鑑』を昭和 29 年（1954 年）より毎年刊行しております。また、国民の言語生活に関する情報として、「ことば」に関する新聞記事の収集を昭和 24 年（1949 年）以降継続して行っており、その成果の一部である記事見出しデータベースはインターネット上に公開しています。

これらは基礎的な研究情報として役立つものですが、日本語に関する情報源には、このほかにさまざまなものがあります。例えば、刊行物に限っても、『国語年鑑』が扱うもの以外に、一般雑誌、総合雑誌、PR 誌、一般向けの日本語に関する本、言葉に関するハウツーものなどがあります。さらに刊行物以外にも日本語に関する情報を掲載しているホームページも含め、内容、形態等様々な資料があり、これらにも現在の日本語の姿が現れています。『日本語ブックレット』は、このように多様な情報源に基づいて、日本語に関する最新の動向や情報・資料を提供しています。

今後とも、国立国語研究所における情報収集体制の向上を図りつつ、よりよい『日本語ブックレット』を目指して改良を重ねていきたいと考えています。

この資料は、情報資料部門の次の者が編集を担当しました。

熊谷康雄，伊藤雅光，新野直哉，池田理恵子，斎藤達哉，竹部歩美

日本語は、私たちにとって身近で、生活する上でなくてはならないものです。この『日本語ブックレット』が日本語に関する情報源の一つとして、成長し、言語生活に役立つものとなることを願っています。

平成 18 年 3 月

独立行政法人 国立国語研究所長

杉 戸 清 樹

目次

はじめに.....	1
ブックレットの使い方.....	3
第1部 本編	
「日本語本」の動向	
「日本語本」概観.....	8
トピック.....	9
トピック関連文献.....	18
「総合雑誌」の動向	
「総合雑誌」概観.....	26
トピック.....	28
トピック関連文献.....	36
「新聞記事」の動向	
「新聞記事」概観.....	43
トピック.....	45
トピック関連文献.....	58
第2部 文献目録	
凡例.....	80
分類の手引き.....	86
付録 関連データの紹介	
国語年鑑.....	89
ことばに関する新聞記事見出しデータベース.....	90

「日本語ブックレット2004」の使い方

構成

1. 日本語ブックレット(以下「ブックレット」と呼びます)は、<動向>と<文献目録>の2部に分かれています。

<動向>は、文献についての調査に基づいて、2004年の傾向を見渡したものです。

<文献目録>は、2004年の日本語本・総合雑誌・新聞の3種類の資料から採録した日本語に関する情報です。

*ただし、研究書・研究論文についての情報は除いています。それらについては、『国語年鑑』を御覧ください。

2. ブックレットの閲覧には2つの方法があります。

- (1) Web ブラウザによる閲覧

ブックレットは、Web ブラウザで閲覧できます。

ただし、<文献目録>はダウンロードして御利用ください。Excel 形式で用意してあります。

- (2) ダウンロードしての閲覧

<文献目録>以外は、PDF 版を用意しました。ダウンロードして御利用ください。

<文献目録>は、Web ブラウザによる閲覧の場合と同様、Excel 形式のデータをダウンロードして御利用ください。

3. <文献目録>について

<文献目録>は、Excel の表形式になっています。

いくつかの項目では、“オートフィルタ”機能による検索が可能です。

“フォーム”機能を使うと、ひとつのレコードについてすべての項目情報をカード形式で一覧表示することができます。

閲覧のしかた

1. Web ブラウザで閲覧する場合

- (1) このブックレットのトップページで御覧になりたい項目をクリックすると、該当の項目に切り替わります。

その画面の左側の枠内には、更に詳しい内容の一覧が表示されています。御覧になりたい内容名をクリックすると、右の大きな画面に内容が表示されます。

- (2) 第1部<本編>は、日本語本・総合雑誌・新聞記事それぞれの2004年の「概観」「トピック」「トピックに関連する文献の情報(関連文献情報)」という構成になっています。

- ・「概観」は、2004年の1年間の傾向を大まかにとらえたものです。

- ・「概観」の中から「トピック」を取り上げて、更に詳しく述べています。

- ・それぞれの「トピック」に関する文献の情報を、第2部<文献目録>から抽出して「関連文献情報」として示しました。

(3)第1部<本編>では、「概観」「トピック」「関連文献情報」は、以下のように展開します。

ここでは「『総合雑誌』の動向」の場合を例に説明します（展開のしかたは「日本語本」「新聞記事」の場合も同様です）

トップページで「『総合雑誌』の動向」をクリックすると、第1部<本編>の画面に切り替わり、総合雑誌の「概観」が表示されます。



トピックとして取り上げるところにはリンクがはってあります。クリックすると「トピック」と「関連文献情報」の画面に切り替わります。

【総合雑誌の概観】

第1部 本編

- 「日本語本」の動向
- 「総合雑誌」の動向
- 概観
- 医師と患者のコミュニケーション
- 文章を書くための技術的なこと／「小説」に関して
- 「言葉と脳神経」に関して
- 読者の野望に立ち向かった著者一人／地名
- 書籍についての特集
- 「国語教育」について

「総合雑誌」概観
— 総合雑誌に見られた日本語をめぐる状況 —

私たちにあって「日本語」は身近な話題です。数年前、いわゆる「日本語ブーム」が起こりましたが、それをきっかけに、人々はよりいっそう日本語に関心を持つようになっていないのでしょうか。『熱帯通信』日本語「どこがおかしい？何がおかしい？」（北原保雄、大修館書店）や『誰がいい人、悪い人の話し方』（樋口裕一、PHP新書）といった、日本語に関する本がたくさ

さて、総合雑誌・文芸雑誌・PR誌にも、日本語に関する記事が掲載されることがあります。そこで、30の雑誌を対象に調べてみたところ、2004年には、393編の記事

トピック一覧

それでは、これらの記事ではどのようなことが話題となっているのでしょうか。分類ごとに見ていくことにします。

リンクをクリック

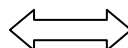
雑誌では、(コミュニケーション)に関する記事が特に豊富に見られます。(コミュニケーション)では、医療現場における医師と患者とのコミュニケーション、ビジネスマンの人間でのプレゼンテーション、管理職における言葉の礼儀など

*なお、「総合雑誌」と「新聞記事」の概観では、注をつけたところがあります。その部分についてもリンクがはってあり、クリックすると、「概観」のページの末尾につけた注にジャンプします。

*サイドバーには、トピックの一覧が示されています。ここからでも、各トピックを見ることができます。



取り上げたトピックが、日本語本・総合雑誌・新聞記事それぞれで関連がある時、相互参照することができるように、キーワードとなる部分にリンクをはりました。



【総合雑誌のトピック】

第1部 本編

- 「日本語本」の動向
- 「総合雑誌」の動向
- 概観
- 医師と患者のコミュニケーション
- 文章を書くための技術的なこと／「小説」に関して
- 「言葉と脳神経」に関して
- 読者の野望に立ち向かった著者一人／地名
- 書籍についての特集
- 「国語教育」について

医師と患者のコミュニケーション

医療現場におけるコミュニケーションについては、**相互リンク** 雑誌記事でも話題として取り上げられています。総合雑誌『臨床』(朝日新聞社)では、10月に「患者の言葉、患者のことば」という特集が組まれました。

記事では、医師に対する病状の説明や診断結果を分かりやすく伝える能力が不足していたり、患者に対する言葉遣いに思いやりが欠けたりする等の問題があり、医師には医療技術だけでなくコミュニケーション能力も必要である、といった内容です。

また、患者の側にも、医師に対して、「5W1H」を履いて、自分の症状を正確に伝える必要がある、といった内容のものもあります。

関連文献情報

医師と患者のコミュニケーション

文献番号 特集名 対談名連載名 記事タイトル 記事サブタイトル (著者名) 雑誌名 巻号 発行年月 掲載ページ

216 特集：患者の言葉、患者のことば 患者を「患者さま」と呼ぶより

【新聞記事のトピック】

第1部 本編

- 「日本語本」の動向
- 「総合雑誌」の動向
- 「新聞記事」の動向
- 概観
- 熱帯通信「誰がいい人、悪い人の話し方」
- 人名辞書
- 地名
- 「国語」は「国語」
- 医師と患者のコミュニケーション
- 子どものインターネット利用のネット教育

医師と患者のコミュニケーション

近年、**相互リンク** 『医師と患者のコミュニケーション』に関する記事が増えています。その中には、医師の「肉親な一言」に傾いたという患者の発言や、病気で不安を覚えている患者やその家族に対して「会話を大切に」「心ある医療」を行うことの大切さを述べているものもしばしば見られます。このような中、医師や医療スタッフ、及びその養成段階においても、「医療はサービス業」という意識の高まりとともに、診察で「心通う対話」を実現するために大学で学生に対して「「接客」指導」を行ったり、難しい専門用語を患者に分かりやすく工夫したりといった配慮がなされるようになりました。

読売新聞朝刊の連載「日本語の現場」の「職場」編では、近年見たり聞いたりする機会が増えた「患者様」という表現を取り上げ、患者と医師双方の意識や、その表現が使われるようになった背景や状況を探っています。

また、薬品の名前には似たものが多くありますが、後発の医薬品について名称を統一するなど、取り違えなどの医療ミスを防ぐための対策の講じられるようになりました。

関連文献情報

- (4)第2部<文献目録>では、2004年の研究書・研究論文以外の、日本語本・総合雑誌・新聞記事から採録した日本語のデータを掲載しています。

日本語本・総合雑誌については、2004年のデータ全体を掲載しています。

*採録の範囲ほか、詳細は、それぞれの「凡例」を御覧ください。

新聞については、「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」の、2004年のデータから抽出したものを掲載しています。

*採録の範囲等に関する詳細は、「凡例」を御覧ください。

データの掲載項目は、日本語本・総合雑誌記事・新聞記事それぞれで異なりますので、「凡例」を御覧ください。

<文献目録>は、Excel形式で用意してあります。Webブラウザでは御覧いただけませんので、ダウンロードしてお使いください。

*「第2部 文献目録」の「ダウンロードへ」から、画面の指示に従ってダウンロードしてください。

2. PDF版をダウンロードして閲覧する場合

- (1)トップページにある「第1部 本編」の「ダウンロードへ」、または、「第1部 本編」のサイドバーにある「第1部本編 PDF版 ダウンロードへ」から、PDF版をダウンロードすることができます。
- (2)PDF版の中には、「第1部 本編」のほかに、「第2部 文献目録」中の「凡例」「分類の手引き」、及び「付録」が含まれています（「文献目録」は、この中には含まれていません）。
- (3)Web版には文章中にリンクをはっていますが、PDF版ではすべてのリンクを解除しています。
- (4)PDF版の閲覧には、Adobe社のAdobe Readerが必要です。Adobe社のWebページで無償配布されています。

3. 冊子を御希望の方へ

このブックレットは、Webブラウザでの閲覧を主としており、冊子の刊行・配布は行っていません。

ただし、<文献目録>以外の部分についてはPDF版を用意しています。

このPDF版と、Excel形式の<文献目録>の2つをダウンロードしていただくと、ブックレット全体をプリントして御利用いただけます。

活用例

1. 何か話題を探したい

ア.まずは、<動向>を御覧ください。

<動向>では、収集したデータに基づいて、まず、2004年1年間の傾向をおおまかに示しています。そして、その中からトピックを取り上げて、更に詳しい考察を加えています。

イ.そのトピックに関して、どのような本や記事があるかを、「関連記事情報」として、ひとまとめにしてあります。これを手がかりとして、<文献目録>のデータを御覧ください。

2. タイトルや執筆者から探したい

ア.まずは、「文献目録の凡例」で、日本語本・総合雑誌・新聞記事それぞれの、データの

構造を御確認ください。

イ．日本語本・総合雑誌・新聞記事それぞれで、データ構造は異なりますが、書名や記事タイトル、執筆者、出版社や発行書、出版・発行年月日が盛り込まれていますので、お探しの項目で検索してください。

3．話題のジャンルから探したい

(1)日本語本・総合雑誌に関しては...

ア．まずは、「分類の手引き」で、目当てにしている話題のジャンルが、このブックレットでは何に該当するかを御確認ください。

イ．分野に関する情報は、「分野分類」の項目に入っています。
この項目では、そのデータがどの分野に該当するかについて、
「大分類>中分類>小分類」

の順に示しています。

その分類名や、各分類の説明を参考に、目当ての資料をお探しくさ
さい。

(2)新聞記事に関しては...

ア．このブックレットで取り上げていない記事や、扱っていない話題については、国語研究所のホームページ上で公開している「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」(「新聞DB」)を利用してお探しくさ
さい。

http://www.kokken.go.jp/katsudo/kenkyu_jyo/sinbun/

なお、「新聞DB」では、1949年から2004年までの13万4千件のデータを検索することができます(2006年3月末)。

イ．検索画面は、「詳細検索」と「簡単検索」の2種類があります。検索語入力欄に思いつく語を自由に入力して、検索してください。

ウ．「詳細検索」画面では、「キー1」欄で、分類情報から検索することもできます。

a. 「キー1」(分類情報)については、ホームページ上の「ご利用方法」のページに掲載している「項目ごとの入力方法及びデータの説明」を御覧ください。

b. 目当ての話題が、「新聞DB」の「キー1」(分類情報)ではどれに該当するかを御確認ください。

c. 「キー1」(分類情報)の分類名や説明を参考に、目当ての記事をお探しくさ
さい。

d. なお、「新聞DB」と「日本語本・総合雑誌」では分類の枠組みが同じではありませんので、御注意ください。また、「新聞DB」では、記事の内容が複数の分野にかかっている場合は、一つの分野に絞ることはせず、対応する分類情報をすべて付けています。

エ．目当ての話題について、この50余年間、新聞に取り上げられ、国語研究所で収集蓄積されているのかいないのか、収集されているとすればどのような内容なのか、掲載時期や新聞によってその内容は同じなのか異なるのかなどをお探しになってみてはいかがでしょうか。

オ．記事本文については、著作権上の事情により、国語研究所のホームページ上で公開することはできません。記事本文をお読みにになりたい場合には、公共の図書館等に所蔵されている縮刷版やマイクロフィルム等 または商用の新聞記事データベースを御利用ください(「凡例」の「4．一覧にある新聞記事を読みたい方は」も御覧ください)。

第 1 部 本 編



「日本語本」概観

「日本語本」については、2002年に、斎藤孝氏が火付け役となった「日本語本ブーム」が出版界の大きな話題となりました。翌2003年にはそれも一段落した感がありましたが、2004年は後半になって、翌年にかけて社会一般で大きな反響を呼ぶようなベストセラーが登場しました。

話題となった本

まず、2004年に、社会一般で話題となった「日本語本」を挙げてみましょう。

前半には、約4600の名詞の数え方を示した飯田朝子著・町田健監修『数え方の辞典』（小学館、4月）がこの種の辞典としては異例の売り上げを記録しました。このテーマの辞典でこれだけの規模・詳細さは前例がなく、著者とともにも多くのメディアに取り上げられました。

その後7月刊の樋口裕一『頭がいい人、悪い人の話し方』（PHP新書）が、2004年の年間ベストセラー総合部門第16位（トーハン調べ。以下も同じ）、そして2005年の同部門では第1位と大いに売れました。この本には誰もが興味を惹かれるような特色があります。

12月に刊行された、北原保雄編『問題な日本語 どこがおかしい？何がおかしい？』（大修館書店）も2005年総合部門第9位（2005年11月刊の続編との合計で）のベストセラーになりました。この本にも先行の類書にはない特色がありました。ただ年末の刊行のため、新聞や総合雑誌での本格的な反響は2005年に入ってからになります。

目立ったテーマ

テーマ別に見てみると、まず地名に関する本が中央・地方いずれの出版社からも多く刊行されています。これには「平成の大合併」が関係していると思われます。

現代の言語学の祖とも言われるフェルディナン・ド・ソシュールに関するものなど、言語学の入門書が相次いだのも注目されます。

さらに2003年の後半から目立っていた、「つい最近まで使われていたのに、今では『死語』となってしまった（又は、なりつつある）言葉」を扱った一般向けの「死語」辞典の刊行が2004年も続きました。

また漢字の読み書き能力の増進をうたった本も多く刊行されています。これには日本語の書記環境の変化が影響しているようです。

目を引いた著者

著者別に見ると斎藤孝氏が引き続き精力的に著作を発表しています。さらにここ数年漢字・中国語に関する一般向け著作を次々に刊行している阿辻哲次氏、そして柴田武・武光誠両氏も、それぞれ一般向け著作を相次いで発表しています。

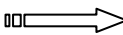
また一般にも広く知られている国語学者の金田一春彦氏の著作を集めた『金田一春彦著作集』（玉川大学出版部）が奇数月に計6巻刊行されました。

話題となった本

飯田朝子著・町田健監修『数え方の辞典』

第1章では約4600の名詞が見出しに掲げられてそれぞれの数え方(助数詞)を引けるようになっており、第2章では逆に助数詞が見出しとなってそれと対応する名詞が引けるようになっています。助数詞についてはこれまで主に国語辞典や『国語便覧』の類で扱われており、これだけの規模の助数詞専門の辞典というのは前例がありませんでした。理解を助けるため、カラーの口絵や、多くのコラム・解説が載っています。何でも「一個、二個」「一つ、二つ」で済ませる傾向が強い昨今にあって、「日本語にはこんなに多種多様な数え方がある」という、若い層には新鮮な驚き、年配層にはある種の懐かしさを感じさせたという側面がありました。各紙の書評欄で取り上げられたのに加え、著者自身も新聞などに登場しました。

この本の影響もあり、その後「数え方」に関する本が相次いで出ました。

関連文献情報  話題となった本(p18)

話題となった本

樋口裕一『頭がいい人，悪い人の話し方』

「道徳的説教ばかりをする」「他人の権威を笠に着る」「差別意識を口に出す」など、「頭が悪く見える話し方の例を四十挙げ、そういう話し方の人への対策や自覚した場合の直し方を示しています。四十のうちには「ありふれたことしか言わない」「丁寧すぎる」「視野が狭い」といったものも含まれており、ふだんの話し方も一切していない、という人はまずいないと言えます。したがって誰が読んでも、必ず幾つかの例は身近に思い当たる人がいてニヤリとし、そのあとには自らも当てはまる例があることに気づきドキッとすることになる、というあたりがヒットの要因でしょう。

この本のヒットを受け、『頭が(の)いい～』という書名の本が次々と出版されています。

関連文献情報 ⇨ 話題となった本(p18)

話題となった本

北原保雄編『問題な日本語 どこがおかしい?何がおかしい?』

問題があると思われる日本語の言い方・使い方の例を数多く紹介している本です。これまでの「日本語本」の多くは、そのような例を直ちに「間違い」と切り捨てていました。しかしこの本は、なぜそのような言い方・使い方が生まれたかという「誤用の論理」を考察し、場合によっては「間違いとはいえない」と市民権を与えている（「とんでもありません」「汚名挽回」などがその例）点に特色があります。また『問題な日本語』という書名自体が、どこかひっかかるようなものであることも注目された一つの要因です。2005年11月には続編として『続弾! 問題な日本語 何が気になる? どうして気になる?』が刊行されました。

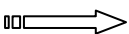
『頭がいい人～』と『問題な日本語』とには、千円札でおつりが来る値段であること、通勤・通学電車の中などで拾い読みができる構成であること、マンガが随所に挿入されていることなど、ふだんあまり本を読まない人でもとつきやすいような共通点があります。

関連文献情報  話題となった本(p18)

地名に関する本

地名をめぐっては、例えば城下町に多く見られる「鉄砲町」「鍛冶町」のような歴史を反映した由緒のある町名が、行政側の手で「中央 丁目」「東町」といった機能的な反面味わいの乏しいものに改変されることへの、反発や批判の声が以前からあります。金沢市では、一度消えた旧町名を復活させようという条例が制定されました。

それに加え、ここ数年は、「平成の大合併」の名のもとに、自治体名のレベルで激しい改変が起きています。なじみのある町や村がいつの間にか消えていたり、知らないうちに自分の郷里に聞きなれない名前の市ができていて驚いたり、という経験をした人も多いはずです。中にはひらがなやカタカナを含んでいるとか、スケールが大きすぎるなど、全国的に物議をかもすような名前もあります（「南セントレア市」をめぐる騒動は記憶に新しいところです）。地名に関する本が多く出ている背景には、そのような現状の中で、地名に対する関心が高まっている、ということがあります。

関連文献情報  地名に関する本(p19)

言語学の入門書

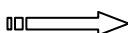
まず、フェルディナン・ド・ソシュールに関する入門書が、町田健『ソシュールのすべて 言語学でいちばん大切なこと』(研究社, 2月), 『ソシュールと言語学 コトバはなぜ通じるのか』(講談社現代新書, 12月), 加賀野井秀一『知の教科書 ソシュール』(講談社選書メチエ, 5月)と相次いでいます。町田氏はこのほかにも『町田健のたのしい言語学』(ソフトバンクパブリッシング, 12月), 佐久間淳一・加藤重広両氏との共著『言語学入門 これから始める人のための入門書』(研究社・12月)といった入門書を発表しています。さらに、黒田龍之助『はじめての言語学』(講談社現代新書, 1月), 大津由紀雄『探検! ことばの世界』(ひつじ書房, 12月)も言語学について初心者にもわかりやすく述べています。

関連文献情報  言語学の入門書(p20)

「死語」辞典

伝統的な言葉を扱った三田英彬監修『忘れていた日本の懐かし言葉』（サンガ、6月）、藤岡和賀夫『懐かしい日本の言葉ミニ辞典 続』（宣伝会議、9月。正編は2003年12月刊）などに対し、大迫秀樹編著・テリー伊藤監修『消えゆく日本の俗語・流行語辞典』（東邦出版、8月）は書名の通りの内容です。これらには語釈だけではなく、使われていた当時の世相や著者の思い出なども記されています。

平成になってすでに15年以上が過ぎ、もはや戦前・戦後を問わず昭和全体を「懐かし」む対象とする傾向が見られること、伝統的な言葉と俗語・流行語との両方において、知っている言葉についての世代間の断絶が大きく（ある世代なら大部分の人が知っている言葉を別の世代はほとんどの人が知らない）、そして細かく（同じ世代内でも、何歳か違ってもう知らない言葉がある）なる、という傾向が進んでいることが背景にありそうです。

関連文献情報  「死語」辞典(p21)

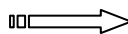
漢字の読み書き能力の増進をうたった本

この分野の本は以前から少なからず出ていましたが、近年の多さは、「パソコンの普及により手で文章を書くことが少なくなり、その結果漢字を忘れてしまいがちになった」と感じる人が多くなっていることと関係があると思われます。やや古いデータですが、2002年1月に読売新聞社が行った調査によると、パソコン・ワープロの影響として「漢字を忘れるようになった」を挙げた人が全体では52%、これらの機器を使うことが「よくある」人では70%に上っています（『読売新聞』同年1月31日付）。ただこの因果関係については、「パソコンなどない時代でも、漢字の度忘れはよくあった」とする否定的な見解（阿辻哲次「パソコンと漢字の「度忘れ」」、『しにか』14-9、2003年9月）もあります。

関連文献情報  漢字の読み書き能力の増進をうたった本(p22)

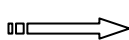
著者別の活動

齋藤孝氏は『声に出して読みたい日本語』（草思社）のパート3を4月に刊行しました。他にも『声に出して読みたい方言』（草思社，2月），『原稿用紙10枚を書く力』（大和書房，10月）など依然精力的に著作を発表し，テレビ等のメディアにも引き続き多く登場しています。さらに，ここ数年漢字・中国語に関する一般向け著作を次々に刊行している阿辻哲次氏が，2004年も『タブーの漢字学』（講談社現代新書，11月）等新書版を3冊発表しました。柴田武・武光誠両氏も，それぞれ『ホンモノの敬語』（角川 one テーマ 21，5月）・『地名の由来から知る日本の歴史』（ダイヤモンド社，6月）など一般向け著作を相次いで発表しています。

関連文献情報  著者別の活動(p24)

『金田一春彦著作集』

金田一春彦氏は、父親の故・京助氏とともに、数多くの国語辞書にかかわったことで知られています。それ以外にも、平易な語り口で数多くの「日本語本」を発表し、テレビにもしばしば登場する（お昼の人気バラエティー番組でレギュラーを勤めたこともあります）など、最も知名度の高い国語学者とってよいでしょう。そういった活動を通して、国民一般の日本語に対する興味を喚起した功績は大きいといえます。しかし、そのような一般向けの活動の根底には、戦前からの長年にわたる学術的研究の積み重ねがありました。この著作集は、一般向けの「日本語本」と、研究者向けの学術書との両方を収めています。2003年11月に隔月で刊行を開始し、2004年は奇数月に計6巻が刊行されましたが、第4回配本が刊行された5月、氏は91歳で帰らぬ人となりました。

関連文献情報  『金田一春彦著作集』(p25)

話題となった本

文献番号	書名	(編著者名)	発行所	出版年月	判型	ページ数または冊数	本体価格
182	問題な日本語	どこがおかしい?何がおかしい?	(北原保雄/編)	大修館書店	2004-12	B6 164p	800円
198	頭がいい人,悪い人の話し方	<PHP新書>305	(樋口裕一/著)	PHP研究所	2004-7	B40 219p	714円
436	数え方の辞典	(飯田朝子/著 町田健/監修)	小学館	2004-4	A5	403p	2200円

地名に関する本

文献番号	書名 (編著者名)	発行所	出版年月	判型	ページ数または冊数	本体価格
79	駅名で読む江戸・東京 続 <PHP 新書> 287 (大石学/著)	PHP 研究所	2004-3	B40	300p	880 円
80	消えた駅名 駅名改称の裏に隠された謎と秘密 (今尾恵介/著)	東京堂出版	2004-8	B6	334p	1800 円
81	群馬の地名をたずねて 増補版 (群馬地名研究会/編 沢口宏/監修)	上毛新聞社	2004-9	B6	246p	1239 円
82	住所と地名の大研究 <新潮選書> (今尾恵介/著)	新潮社	2004-3	B6	271p	1300 円
83	そんな歴史があったのか! 山の名前の謎解き事典 <青春文庫> 293 (谷有二/著)	青春出版社	2004-5	A6	204p	524 円
84	筑前故地名ばなし (池田善朗/著)	海鳥社	2004-7	A5	221p	1800 円
85	地名から歴史を読む方法 日本史の意外な真相が地名に隠されていた <Kawade 夢文庫> (武光誠/著)	河出書房新社	2004-9	A6	221p	514 円
86	地名と苗字の謎 日本人の常識 (丹羽基二/著)	幻冬舎	2004-5	B6	238p	1400 円
87	地名の魅力 <白水Uブックス> 1078 (谷川彰英/著)	白水社	2004-10	B40	228p	950 円
88	地名の由来から知る日本の歴史 (武光誠/著)	ダイヤモンド社	2004-6	B6	230p	1400 円
89	新潟地名新考 上 (小林存/著 須貝重一/翻案)	新潟日報事業社	2004-8	A5	336p	1800 円
90	新潟地名新考 下 (小林存/著 須貝重一/翻案)	新潟日報事業社	2004-8	A5	393p	1800 円
91	不思議な地名の日本地図 <青春文庫> (歴史の謎研究会/編)	青春出版社	2004-7	A6	286p	600 円
375	河川・湖沼名よみかた辞典 新訂版 (日外アソシエーツ/編刊)	日外アソシエーツ 紀伊国屋書店	2004-2	A5	562p	9800 円
376	三省堂日本山名事典 (徳久球雄; 石井光造; 武内正/編)	三省堂	2004-5	A5	1213p	5300 円
377	神社・寺院名よみかた辞典 普及版 (日外アソシエーツ/編刊)	日外アソシエーツ 紀伊国屋書店	2004-6	A5	767p	9500 円
378	日本地名大事典 上 あ～す (吉田茂樹/著)	新人物往来社	2004-10	A5	340p	9800 円
379	日本地名大事典 下 せ～わ (吉田茂樹/著)	新人物往来社	2004-10	A5	341p	9800 円

言語学の入門書

文献番号	書名 (編著者名)	発行所	出版年月	判型	ページ数または冊数	本体価格
334	なぜ日本人は日本語が話せるのか 「ことば学」20話 (今井邦彦/著)	大修館書店	2004-3	B6	230p	1500円
335	言語学入門 これから始める人のための入門書 (佐久間淳一;加藤重広;町田健/著)	研究社	2004-12	A5	169p	1800円
336	ことばとは何か 言語学という冒険 <ちくま新書>463 (田中克彦/著)	筑摩書房	2004-4	B40	238p	720円
337	ことばの科学ハンドブック (郡司隆男;西垣内泰介/編著)	研究社	2004-2	A5	289p	2800円
338	ソシユールのすべて 言語学でいちばん大切なこと (町田健/著)	研究社	2004-2	A5	198p	1600円
339	探検!ことばの世界 新版 (大津由紀雄/著)	ひつじ書房	2004-12	A5	159p	1600円
340	はじめての言語学 <講談社現代新書>1701 (黒田龍之助/著)	講談社	2004-1	B40	250p	720円
341	町田健のたのしい言語学 (町田健/著)	ソフトバンクパブリッシング	2004-12	A5	296p	2500円
342	ソシユールと言語学 コトバはなぜ通じるのか <講談社現代新書>1763 (町田健/著)	講談社	2004-12	B40	221p	720円
343	知の教科書 ソシユール <講談社選書メチエ>300 (加賀野井秀一/著)	講談社	2004-5	B6	210p	1500円

「死語」辞典

文献番号	書名 (編著者名)	発行所	出版年月	判型	ページ数または冊数	本体価格
410	消えゆく日本の俗語・流行語辞典 (大迫秀樹/編著 テリー伊藤/監修)	東邦出版	2004-8	A5	348p	1200 円
411	心が伝わるなつかしの日本語 (一校舎国語研究会/編)	永岡書店	2004-9	A6	254p	571 円
412	絶滅寸前! 物の名前 名称探知 (三宮庄二; 平野顕良; 竹内悠人/著)	京都修学社 英伝社	2004-3	B6	119p	1200 円
413	使わなくなった日本語 時代劇篇 <リュウ・ブックス アステ新書> 13 (平土大学/編)	経済界	2004-8	B40	213p	900 円
414	懐かしい日本の言葉 ミニ辞典 続 NPO 直伝塾プロデュース レッドブック (藤岡和賀夫/著) 宣伝会議		2004-9	A6	219p	600 円
415	忘れていた日本の懐かし言葉 (三田英彬/監修)	サンガ	2004-6	B6	244p	1300 円

漢字の読み書き能力の増進をうたった本

文献番号	書名 (編著者名)	発行所	出版年月	判型	ページ数または冊数	本体価格
260	大人の漢字ドリル 1 <パズル books> 39 (杉本幸生/編著)	世界文化社	2004-9	B40	127p	600 円
261	書けないと恥ずかしい漢字 (彩図社/編纂刊)	彩図社	2004-4	B6	126p	680 円
262	書けないと恥ずかしい漢字 1000 ペンを持って楽しむドリル本 例えば「けっこう」という漢字, いくつ書けますか? <Kawade 夢文庫> (岡田話史/著)	河出書房新社	2004-11	A6	222p	514 円
263	漢字クイズで頭を耕せ (多湖輝/著)	新講社	2004-10	B6	190p	1300 円
264	漢字ど忘れ世代のためのもいちど始める漢字練習帳 小学校で習った漢字, きちんと書けますか? <@basic> (加納喜光/著)	技術評論社	2004-10	B40	173p	1080 円
265	漢字マスター帳 漢字に強くなるにはコツがある (鈴木昭夫/著)	河出書房新社	2004-1	B6	206p	1400 円
266	教養が試される知らない漢字練習帳 (藁谷久三/著)	幻冬舎	2004-1	B6	204p	1300 円
267	読めない書けない漢字 3000 他人に自慢したくなる これだけ知っていれば漢字王! (日本漢字王検定研究会/編著)	日本文芸社	2004-6	B6	262p	950 円
294	頭をやわらかくする大人の漢字パズル (岡田光雄/著)	PHP研究所	2004-8	B5	86p	900 円
295	大人の常識漢字力 漢字「脳」力がぐんぐん高まる! <リイド文庫> (漢字力研究会/編)	リイド社	2004-4	A6	158p	400 円
296	漢字道 <読みの極意> 免許皆伝への道 (リベラル社/編刊)	リベラル社 星雲社	2004-7	B40, B6 小	174p	880 円
297	「漢字脳」活性ドリル (藁谷久三/著)	サンマーク出版	2004-9	B6	222p	1300 円
298	漢字の遊歩道 (小山光一/著)	沖積舎	2004-2	B6	179p	2000 円
299	漢字の読み方レッスン 読む力をパワーアップ (山本修司/著)	新水社	2004-4	A5	239p	1900 円
300	漢字力を鍛える! 書けない漢字・読めない漢字のウンチク講座 (藁谷久三/著)	イーグルパブリッシング	2004-6	B6	214p	1300 円
301	この漢字も読めますか? 日本人度をチェック! (加納喜光/著)	PHP研究所	2004-7	B6 小	247p	1200 円
302	知っているときっと役に立つ難読漢字クイズ 104 (杉浦重成/ほか著)	黎明書房	2004-12	A5	125p	1500 円
303	つい他人に試したくなるやっぱり読めそうで読めない漢字 <角川文庫> (現代言語セミナー/編)	角川書店	2004-5	A6	158p	400 円
304	つい他人に試したくなる読めそうで読めない漢字 ハイパーエディション (現代言語セミナー/編)	角川書店	2004-7	B6	316p	457 円
305	難解難読絶対知らない漢字学習帳 (藁谷久三/著)	幻冬舎	2004-7	B6	209p	1300 円
306	読めそうで読めない漢字の本 あなたに挑戦! 正しく読めますか? <二見文庫> (出口宗和/著)	二見書房	2004-4	A6	218p	590 円
307	読めそうなのに読めない漢字の本 <ワニ文庫> (日本の常識研究会/編著)	ベストセラーズ	2004-4	A6	191p	476 円

- 308 読めたらスゴイ！漢字 1000 この難読さが面白い <Kawade 夢文庫> (日本語倶楽部/編) 河出書房新社 2004-7 A6 221p 514 円
- 309 読めるようで読めない超難読漢字 2000 きっと誰かに教えたい (一校舎/編) 永岡書店 2004-4 A6 190p 400 円

著者別の活動

文献番号	書名 (編著者名)	発行所	出版年月	判型	ページ数または冊数	本体価格
25	ホンモノの敬語 <角川 one テーマ 21>B-58 (柴田武/著)	角川書店	2004-5	B40	222p	686 円
56	タブーの漢字学 <講談社現代新書>1751 (阿辻哲次/著)	講談社	2004-11	B40	229p	720 円
59	部首のはなし 漢字を解剖する <中公新書>1755 (阿辻哲次/著)	中央公論新社	2004-7	B40	211p	720 円
62	教養として知っておきたい日本語 <幻冬舎文庫> (柴田武/著)	幻冬舎	2004-9	A6	375p	600 円
71	故事成語 目からウロコの85話 <プレイブックス>インテリジェンスシリーズ 103 (阿辻哲次/著)	青春出版社	2004-10	B40	189p	700 円
85	地名から歴史を読む方法 日本史の意外な真相が地名に隠されていた <Kawade 夢文庫> (武光誠/著)	河出書房新社	2004-9	A6	221p	514 円
88	地名の由来から知る日本の歴史 (武光誠/著)	ダイヤモンド社	2004-6	B6	230p	1400 円
104	声に出して読みたい方言 CDブック (斎藤孝/著)	草思社	2004-2	B6	196p	1500 円
176	人前で使える日本語 もう誤用で赤っ恥をかかない (柴田武/著)	祥伝社	2004-6	B6	245p	1300 円
213	嫌われる言葉 部下と上司の常套句 (斎藤孝/著)	講談社	2004-9	A5	154p	1300 円
214	コミュニケーション力 <岩波新書>新赤版 915 (斎藤孝/著)	岩波書店	2004-10	B40	205p	700 円
215	コメント力 「できる人」はここがちがう (斎藤孝/著)	筑摩書房	2004-10	B6	206p	1200 円
254	図解斎藤孝の結論が出る会議 会議成功のためのリーダー19のルール+参加者11のルール (斎藤孝/監修)	きこ書房	2004-2	B5	94p	1000 円
272	原稿用紙10枚を書く力 (斎藤孝/著)	大和書房	2004-10	B6	196p	1200 円
310	斎藤孝の読むチカラ 「東大国語」入試問題で鍛える! (斎藤孝/著)	宝島社	2004-8	B6	221p	1200 円
322	声に出して読みたい日本語 3 (斎藤孝/著)	草思社	2004-4	B6	214p	1200 円
324	斎藤孝の脳いきいき!大人の音読プリント ひとつ上の脳力へ! 決定版 <大人のプリントシリーズ>1 (斎藤孝/著)	小学館	2004-10	B5	152p	1000 円
347	日本語力と英語力 <中公新書ラクレ>128 (斎藤孝;斎藤兆史/著)	中央公論新社	2004-4	B40	196p	720 円
425	大人の日本語の愉しみ 歴史にそのルーツを訪ねて <PHP 文庫> (武光誠/著)	PHP 研究所	2004-12	A6	302p	667 円

『金田一春彦著作集』

文献番号	書名	(編著者名)	発行所	出版年月	判型	ページ数または冊数	本体価格
31	金田一春彦著作集	2	国語学編	2	(金田一春彦/著)	玉川大学出版部	2004-1 A5 662p 8500 円
32	金田一春彦著作集	3	国語学編	3	(金田一春彦/著)	玉川大学出版部	2004-3 A5 635p 8500 円
33	金田一春彦著作集	4	国語学編	4	(金田一春彦/著)	玉川大学出版部	2004-5 A5 718p 8500 円
34	金田一春彦著作集	10	童謡・唱歌編		(金田一春彦/著)	玉川大学出版部	2004-7 A5 709p 8500 円
35	金田一春彦著作集	11	随筆編	1	(金田一春彦/著)	玉川大学出版部	2004-9 A5 709p 8500 円
36	金田一春彦著作集	12	随筆編	2	(金田一春彦/著)	玉川大学出版部	2004-11 A5 718p 8500 円

「総合雑誌」概観

総合雑誌に見られた日本語をめぐる状況

私たちにとって「日本語」は身近な話題です。

数年前、いわゆる「日本語ブーム」が起りましたが、それをきっかけに、人々はよりいっそう日本語に関心を持つようになっていたのではないのでしょうか。『問題な日本語 どこがおかしい？何がおかしい？』（北原保雄，大修館書店）や『頭がいい人，悪い人の話し方』（樋口裕一，PHP 新書）といった、日本語に関する本がたくさん売れていることなどからも、そのことがうかがえます。

さて、総合雑誌・文芸雑誌・PR誌にも、日本語に関する記事が掲載されることがあります。そこで、30の雑誌を対象に調べてみたところ、2004年には、393編の記事がありました。

それでは、これらの記事ではどのようなことが話題となっているのでしょうか。分野ごとに見ていくことにします。

雑誌では、コミュニケーション に関する記事が特に豊富に見られます。

コミュニケーション では、医療現場における医師と患者とのコミュニケーション、ビジネスマンの人前でのプレゼンテーション、冠婚葬祭における言葉の礼儀などといった、言葉の使い方、話し方が話題となっています。また、文章を書くための技術的なことを記している連載も見られました。

言葉と機械 には、携帯電話やパソコンでのメールやインターネット等の進歩や変化等、情報メディアそのものを扱った記事が見られますが、これらの情報メディアは、コミュニケーションの手段として利用されるため、その話題は、コミュニケーション とも深く関連しています。

雑誌では、語彙 も話題として頻繁に取り上げられます。そして、その特徴としては、流行語・新語・カタカナ語の言葉の意味や、語彙の歴史に関する内容であること、1 ページ程の連載記事であること、この2点が挙げられます。2004年は、国内外で親しまれている俳句に関連して、「季語」についての特集が組まれました。

国語教育 では、「読書推進」と「ゆとり教育との関連」の2つが話題となっています。

また、雑誌では、脳の活性化や衰えの防止など、いわゆる「脳力」が話題となっています。そして、この話題は、これまでは 国語教育 における話題の一つだった「読書」や「音読」とも関連しています。

文章・文体 では、『新潮』や『文学界』等の文芸雑誌で、小説の構成や様式、作家の文体などが話題となっています。

言語一般 についての記事も豊富に見られます。その多くは、翻訳にまつわるものですが、2004年の特徴として、英語の学習に関する特集があったことが挙げられます。

この他ほか 方言 辞書をめぐって 文字 マスコミュニケーション に関する話題もありました。また、文法 についての記事はごくわずかしかなく、音声 に関するものはまったくありませんでした。音声 や 文法 については、一般に馴染みの薄い分野なので、学術専門書ではない総合雑誌では話題に上りにくいのではないのでしょうか。

『問題な日本語』『頭がいい人，悪い人の話し方』について

『問題な日本語 どこがおかしい？何がおかしい？』（北原保雄，大修館書店，12月），『頭がいい人，悪い人の話し方』（樋口裕一，PHP新書，7月）については，「日本語本概観」に分析があります。

調査の対象とした総合雑誌

次の30の総合雑誌・文芸雑誌・PR誌を対象として，日本語に関する記事の有無を調査しました（以下，五十音順）。なお，このブックレットでは，“総合雑誌・文芸雑誌・PR誌”全体を指して「総合雑誌」と呼んでいます。

MYB みやび通信（みやび出版） UP（東京大学出版会） voice（PHP研究所） 潮（潮出版社）
いずみ通信（和泉書院） いずみミニ通信（和泉書院） 学燈（丸善） 汲古（汲古書院） ぐ
んしょ（続群書類従完成会） 群像（講談社） 現代（講談社） 諸君！（文芸春秋） 新潮（新
潮社） 新潮45（新潮社） すばる（集英社） 正論（産経新聞社） 世界（岩波書店） ちく
ま（筑摩書房） 中央公論（中央公論新社） 中国図書（内山書店） 図書（岩波書店） 波（新
潮社） ひととき（JR東海エージェンシー） 文学界（文芸春秋） 文芸春秋（文芸春秋） 本
（講談社） 本の窓（小学館） 本郷（吉川弘文館） 未来（未来社） 論座（朝日新聞社）

「分野」について

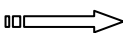
この目録では，記事の内容に応じて16の分野に振り分けています。分野についての詳細は，分類の手引きを参照してください。

医師と患者のコミュニケーション

医療現場におけるコミュニケーションについては、新聞紙面でも話題として取り上げられています。総合雑誌『論座』（朝日新聞社）では、10月に「医者言葉、患者のことば」という特集が組まれました。

記事は、医療を施す側には、患者に対する病状の説明や診断結果を分かりやすく伝える能力が不足していたり、患者に対する言葉遣いに思いやりに欠けていたりする等の問題があり、医師には医療技術だけでなくコミュニケーション能力も必要である、といった内容です。

また、患者の側にも、医師に対して、「5W1H」を使って、自分の症状を正確に伝える必要がある、といった内容のものもあります。

関連文献情報  医師と患者のコミュニケーション(p36)

文章を書くための技術的なこと 「小説」に関して

以前から、総合雑誌では、社会において言葉を使ってどのように自己主張・自己表現していくかについて、人々は悩みを抱いている、といった事柄が話題となっていました（ブックレット2002）。

書くこと・書いて表現することに関して、人々は「考えをまとめて文章を構成する能力の低下」を感じている、という調査結果が報告されてもいます（平成14年度「国語に関する世論調査」）。

2004年の総合雑誌には、「随筆」「手紙」「自分史」等の書き方についての記事がありましたが、このように、「文章の書き方」に関する事柄が話題となることには、こういった背景があるものと考えられます。

さて、自分は『書く』能力が低い、と感じる人々がいる一方で、文章を書くことで成功をおさめる人もいます。

文芸雑誌では、芥川賞・直木賞を受賞した女性作家たちが、創作の際の心情や、どういったプロセスを経て作品を完成させたかなどを語っています。

これらは、「文章を書く技術」を直接的に教えてくれるものではありませんが、「書くこと」に対する意欲を起こさせてくれるきっかけになったのではないのでしょうか。

<参考>

文化庁ホームページ（国語に関して 国語に関する世論調査）：<http://www.bunka.go.jp/>

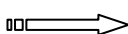
関連文献情報 ⇨ 文章を書くための技術的なこと / 小説に関して(p37)

言葉と機械 に関して

情報メディアは、コミュニケーションの手段として利用されるため、言葉と機械 の話題は、コミュニケーション とも深く関連しています。その内容は、主に、対人関係の変化や自己表現力の低下等の、コミュニケーションの問題についてです。

また、その他にも、脳（力）の低下といった、情報メディアのもたらすマイナス面に関する事、小学校での情報教育（パソコン教育）における、教育現場と子供たちの実態との相違なども話題となっています。

これらのコミュニケーション手段は、今後一層技術革新が進み、我々の言語生活に大きな影響を与えていくものと考えられます。また、それとともに、情報メディアに関連する記事が増加していくとも予想されます。

関連文献情報  言葉と機械に関して(p38)

語彙分野で話題にならなかった事柄 - 人名・地名 -

人名として使用できる漢字は、2004 年に見直しが行われ（法制審議会人名用漢字部会）、人名用漢字は 285 字から 983 字に増加しました。

この、人名用漢字に関しては、新聞で話題になっていますが、雑誌では取り上げられてはいませんでした。

地名に関しても同様です。市町村合併の動きの加速に伴って、日本語本や新聞では話題となっていますが、雑誌では 3 件を見るだけで、大きな話題とはなりませんでした。

<参考>

法務省ホームページ：<http://www.moj.go.jp>

審議会情報（法制審議会人名用漢字部会）：<http://www.moj.go.jp/SHINGI/>

季語についての特集

雑誌では、詩歌や随筆に「日本語の美しさ」を見出す記事がしばしば見られます（例えば、2002年には、「詩歌を大事にしたい・俳句は日本語の砦」（文芸春秋 80-12, 9月号）のような記事がありました）。

2004年は、俳句に使われる「季語」についての特集がありました。

今、俳句には、陰暦を基にして成り立っている季語・季節感覚の継承と、それを改正して現代という時代に合わせた季語・季節感覚を盛り込んだ新しい俳句の展開（更には、五・七・五の定型にもとられない）、という、相反する課題があると言われてしています。

俳句は、「俳句甲子園」（全国高校生俳句選手権大会）が開催されたり、清涼飲料水メーカーが大会を主催したりしています。また、俳句は、日本だけではなく、世界各地でも親しまれ、国際コンテストも盛んに行われています。

<参考>

俳句甲子園（全国高校生俳句選手権大会*）：<http://www.haikukoushien.com/>

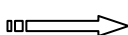
* この大会は、文部科学省の「学びんピック**」認定大会、文化庁の後援事業です。

** 学びんピック：学校の教科等における文化的な諸活動を通じて培った様々な力を競い高め合う全国的規模の大会に対して、文部科学省が支援をする、というもの。

<http://manabinpick.mext.go.jp/home.asp>

伊藤園新俳句大賞：<http://www.itoen.co.jp/new-haiku/>

国際俳句交流協会：<http://www.haiku-hia.com/kouryu.html>

関連文献情報  季語についての特集(p39)

国語教育 について

今日、国語力の低下や、学力の低下が問題となっています。このような事態に至った要因として、活字離れや、国語科教育のあり方の問題が挙げられています。雑誌にも、このようなことが話題として取り上げられています。

雑誌には、読書や音読の重要性について述べる記事が見られます。読書に関しては、文化審議会の提言等でも、国語力向上のための一つの方策として、学校での「読書教育の充実」が指摘されてきました。

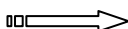
あるいは、日本語ブームの延長、とりわけ、斎藤孝氏の『声に出して読みたい日本語』シリーズの影響で、読書や音読に対する人々の関心はまだまだ高いのだ、という見方もできるでしょうか。

国語科教育のあり方の問題に関しては、ゆとり教育の見直しという形で雑誌に現れています。ゆとり教育は、2002年春から実施されました。しかし、2003年10月には、中央教育審議会から答申が出され（「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」）、1年余りで見直されることとなりました。

<参考>

文部科学省ホームページ：<http://www.mext.go.jp>

審議会情報（文化審議会）：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/main_b5.htm

関連文献情報  国語教育について(p40)

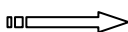
いわゆる「脳(力)」に関して

川島隆太『脳を鍛える大人のドリル』シリーズ(くもん出版)がベストセラーになったこと(トーマンの調べによると、2004年は総合部門で8位)が影響してでしょうか、2004年は、脳(力)と、読書や音読等の言語的な行為との関係が新しい話題として登場しています。

「読書」「音読」は、国語力の向上や、日本文化への意識の向上に有効であり必要なものであるとして、国語科教育の一環として行われることから、国語教育分野における話題と考えがちですが、2004年における「読書」「音読」の話題は、このことだけにとどまるものではありません。

「読書」や「音読」は「脳を活性化させる」「脳の衰えを阻止する」といった、いわゆる「脳力」の向上にとって有効であるといった具合に、子供(児童・生徒)だけでなく大人にとっても有効なものである、とされています。

また、雑誌には、読書や音読以外にも、「『書く』こと」「携帯電話やパソコンの使用」「会話・対話」などが、脳(力)の向上・低下と関連する、といった内容の記事も見られます。

関連文献情報  いわゆる「脳(力)」について(p41)

英語学習・英語教育について

2004年は、幼児・児童への早期英語教育や成人の外国語学習に関する記事がありました。10月には、特集も組まれています（特集；本物の英語力 文芸春秋 82-14, 10月）。

幼児・児童への早期英語教育についての記事は、英語嫌いにさせない学習環境が必要である、英語教育よりも国語教育に力を注ぐべきである、といったことが、その内容となっています。小学校での英語必修化は、2004年に本格的な検討が始まった事柄なので（中央教育審議会 教育課程部会）、2004年に掲載された記事の数はわずかでしたが、今後は、話題として数多く取り上げられるようになるだろうと予想されます。

成人の外国語学習に関しては、中学・高校で基礎を学ぶことの重要性、英会話学校の選び方などが中心的な話題となっています。また、学習方法として、英文の暗唱や名文を繰り返し音読することが提唱されています。音読や暗唱は、国語力向上の方法の一つとしても提唱されていた事柄ですが、これが、英語力の向上においても有効であるとされています。

<参考>

文部科学省ホームページ：<http://www.mext.go.jp>

審議会情報（中央教育審議会 教育課程部会）：

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/main_b5.htm

関連文献情報 ⇨ 英語学習・英語教育について(p42)

医師と患者のコミュニケーション

-
- | 文献番号 | 特集名 | 対談名や連載名 | 記事タイトル | 記事サブタイトル | (筆者名) | 雑誌名 | 巻号 | 発行年月 | 掲載ページ |
|------|-----|---------|--------|----------|-------|-----|----|------|-------|
|------|-----|---------|--------|----------|-------|-----|----|------|-------|
-
- 216 特集；医者という言葉，患者のことば 患者を「患者さま」と呼ぶよりも...
(徳永進；中村哲) 論座 113 2004-10 pp.8-21
- 217 特集；医者という言葉，患者のことば 草の根の運動が医療のコミュニケーションを変える 「患者術」を伝授する市民団体の力量 (笹倉尚子) 論座 113 2004-10 pp.42-47
- 218 特集；医者という言葉，患者のことば 医師に要求される共感力と想像力 意思疎通不足が増幅させる医療不信 (塩田雄大) 論座 113 2004-10 pp.36-41
- 219 特集；医者という言葉，患者のことば 「医療面接」で情報を共有するために 進む医学教育と患者の表現 (奈良信雄) 論座 113 2004-10 pp.30-35
- 232 日本の医学教育はどこへ？ コミュニケーション能力は身につけられるか
(大西弘高；杉本なおみ) 論座 106 2004-3 pp.232-239

文章を書くための技術的なこと／小説に関して

文献番号	特集名	対談名や連載名	記事タイトル	記事サブタイトル	(筆者名)	雑誌名	巻号	発行年月	掲載ページ
149	<特別対談>	作家という最後の職業			(金原ひとみ;村上龍)	文学界	58-3	2004-3	pp.222-236
150	<特別対談>	イノセンスの先へ			(綿矢りさ;藤沢周)	文学界	58-3	2004-3	pp.238-253
151	<特別対談>	ことばのあつかいかたについて			(江国香織;川上弘美)	文学界	58-3	2004-3	pp.254-269
248	連載;	大人のための文章教室(8)	手紙の書き方裏技表技		(清水義範)	本	29-2	2004-2	pp.16-23
249	連載;	大人のための文章教室(9)	実用文の書き方の裏技表技		(清水義範)	本	29-3	2004-3	pp.20-27
250	連載;	大人のための文章教室(11)	随筆の書き方の裏技表技		(清水義範)	本	29-5	2004-5	pp.26-33
251	連載;	大人のための文章教室(12)最終回	文章上達のあの手この手		(清水義範)	本	29-6	2004-6	pp.18-25
253	講座「自分史」を本にする	読ませる文章を書くためには	名文は想像を呼ぶ	(2)実践編	(池部良)	現代	38-9	2004-9	pp.194-195
254	講座「自分史」を本にする	読ませる文章を書くためには	リズムのよい文章を書く	(1)基礎編	(金田浩一呂)	現代	38-9	2004-9	pp.191-193

言葉と機械に関して

文献番号	特集名	対談名や連載名	記事タイトル	記事サブタイトル	(筆者名)	雑誌名	巻号	発行年月	掲載ページ
196	Ushio 情報 Box	潮市民講座	チャット	(坂本衛)	潮	547	2004-9	pp.285-289	
197	特集;危うし	日本の「読み」「書き」「脳力」	「ケータイ」「ネット」空間で膨張する自意識	(大月隆寛)	諸君!	36-6	2004-6	pp.195-203	
198	連載;日本人の教養(11)	NOケータイ・デー	いまこそつくれ!	(柳田邦男)	新潮	45	23-10	2004-10 pp.250-258	
199	連載;ニュースの化学方程式(32)	“喧嘩用”の言葉を知らずネットでチャットする子どもたち	(中野不二男)	中央公論	119-8	2004-8	pp.260-265		
200	特集;教育の希望を求めて	携帯電話時代の教育改革を	臨教審でとらえきれなかったこと	(石井威望)	中央公論	119-2	2004-2	pp.190-191	
201	文科省推進「小学生パソコン教育」の惨状	(樽谷賢二)	新潮	45	23-8	2004-8	pp.234-239		
204	特集;ケータイ文化は退廃墮落社会の予兆か	不安定なつながりが逆に孤独を深めている	(小原信)	中央公論	119-4	2004-4	pp.166-173		
205	特集;ケータイ文化は退廃墮落社会の予兆か	ケータイを敵視する“メディアー世”たちの傲慢	(武田徹)	中央公論	119-4	2004-4	pp.159-165		
227	特集;私たちは若い世代を「育てている」か	<座談会>「ケータイ的なるもの」の論理と心理	(北田暁大;香山リカ;辻大介)	世界	723	2004-2	pp.162-172		

季語についての特集

-
- | 文献番号 | 特集名 | 対談名や連載名 | 記事タイトル | 記事サブタイトル | (筆者名) | 雑誌名 | 巻号 | 発行年月 | 掲載ページ |
|------|-----|---------|--------|----------|-------|-----|----|------|-------|
|------|-----|---------|--------|----------|-------|-----|----|------|-------|
-
- 51 特集；季語再考 短詩形文学の試み 江戸の季節感
(田中優子) すばる 26-10 2004-10 pp.180-187
- 52 特集；季語再考 短詩形文学の試み HAIKU をめぐる対話(1) 星野恒彦氏を迎えて
(有馬朗人；星野恒彦) すばる 26-10 2004-10 pp.188-199
- 53 特集；季語再考 短詩形文学の試み HAIKU をめぐる対話(2) 日本語圏外の俳人の考えを聞く
(有馬朗人；宮下恵美子) すばる 26-10 2004-10 pp.200-203
- 54 特集；季語再考 短詩形文学の試み <アンケート> 私の季語考
(嵐山光三郎；いとうせいこう；宇多喜代子；大木あまり；小沢昭一；小沢実；權未知子；黒田杏子；塩田丸男；杉本苑子；高樹のぶ子；高橋洋子；立松和平；筑紫磐井；辻井喬；ホームズ，デニス；長嶋有(肩甲)；西村和子；ねじめ正一；芳賀徹；富士真奈美；黛まどか；吉行和子)
すばる 26-10 2004-10 pp.204-215
- 55 特集；季語再考 短詩形文学の試み <鼎談> 季題，季語，そして反季語
(高橋睦郎；金子兜太；鈴木健一；石寒太) すばる 26-10 2004-10 pp.154-179

国語教育について

- | 文献番号 | 特集名 | 対談名や連載名 | 記事タイトル | 記事サブタイトル | (筆者名) | 雑誌名 | 巻号 | 発行年月 | 掲載ページ |
|------|--------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------|-------|-------|--------|------------------|
| 267 | | お父さん,先生になれ! | 出張先から子どもを鍛える実践的総合学習のすすめ | | (西村晃) | Voice | 314 | 2004-2 | pp.200-207 |
| 268 | 特集;教育の希望を求めて | 学校も教育委員会も親も自立せよ | | | (中井浩一) | 中央公論 | 119-2 | 2004-2 | pp.170-179 |
| 270 | 特別寄稿; | ゆとり教育は大失敗 | 日本語があぶない | 文科省と日教組は共犯関係にある | (丸谷オ一) | 文芸春秋 | 82-7 | 2004-5 | pp.148-156 |
| 271 | 教育改革 | 学校選択,学力テスト,教育特区が公教育を破壊する | 荒川区,品川区の「新自由主義」教育改革 | | (山本由美) | 世界 | 727 | 2004-6 | pp.119-126 |
| 272 | 読者諸君 | 国語力から身につけよ | | | (庄司善一) | 諸君! | 36-7 | 2004-7 | pp.373-374 |
| 276 | 連載; | 21世紀の仕掛け人 | 国語力こそ国力である | | (藤原正彦) | Voice | 318 | 2004-6 | pp.30-39 |
| 278 | <対談> | 子供に国語の修業をさせよ | 10歳までに夏目漱石や宮沢賢治の名作を読ませよう | | (斎藤孝;桜井よしこ) | Voice | 313 | 2004-1 | pp.120-129 |
| 279 | 連載; | 変わる教育の現場から(7)(最終回) | 「朝の読書」が養う人間力 | 生きた言葉を自由自在に使いこなせる子供は伸びる | (桜井よしこ) | Voice | 314 | 2004-2 | pp.208-217 |
| 280 | <対談> | 本を読む子に育てよう | 活字文化復興のために文化審議会委員が緊急提言 | | (阿刀田高;藤原正彦;松岡和子) | 文芸春秋 | 82-9 | 2004-7 | pp.364-372 |
| 281 | <達人対談> | 数学者は美しいのが好き | | | (藤原正彦;ビートたけし) | 新潮 | 45 | 23-8 | 2004-8 pp.99-109 |

いわゆる「脳(力)」に関して

-
- | 文献番号 | 特集名 | 対談名や連載名 | 記事タイトル | 記事サブタイトル | (筆者名) | 雑誌名 | 巻号 | 発行年月 | 掲載ページ |
|------|-----|---------|--------|----------|-------|-----|----|------|-------|
|------|-----|---------|--------|----------|-------|-----|----|------|-------|
-
- 208 シンポジウム詳報 脳科学が証明した家庭教育と父性・母性の重要性
(川島隆太; マークス寿子; 山谷えり子; 富田和巳) 正論 385 2004-7 pp.246-261
- 260 60代は「危険がいっぱい」(2) 音読と計算は痴呆を救うか 見逃される「老化のサイン」
(川島隆太) 現代 38-8 2004-8 pp.286-291
- 297 <和田秀樹連続対談>不老の方程式 計算・音読で呆けない脳を
(和田秀樹; 川島隆太) 文芸春秋 82-9 2004-7 pp.262-269
- 304 特集;本物の英語力 脳にやさしい英会話レッスン 脳が英語を習得する自然なプロセスとは?
(川島隆太)文芸春秋 82-14 2004-10 pp.311-316
- 313 40歳を過ぎてからの大人の脳の鍛え方 (川島隆太) 新潮45 23-7 2004-7 pp.158-164
- 325 連載;内館牧子の「今日もがぶり寄り！」(31) あなたの脳を活性化させる“特効薬”お教えします。
(内館牧子; 川島隆太) 潮 545 2004-7 pp.222-229

英語学習・英語教育について

文献番号	特集名	対談名や連載名	記事タイトル	記事サブタイトル	(筆者名)	雑誌名	巻号	発行年月	掲載ページ						
7	特集;危うし	日本の「読み」「書き」「脳力」	<対談> 愚の愚の愚	英語早期教育	(藤原正彦;斎藤兆史)	諸君!	36-6	2004-6	pp.160-171						
286	<対談>	「話せる英語」幻想に別れを告げよ	英語シャワー, 文法軽視の罠にはまるな		(斎藤兆史;斎藤孝)	中央公論	119-2	2004-2	pp.198-208						
303	特集;本物の英語力	英語幻想にはまる母親たち	盲信, 迷信, 母親たちの間違いだらけ英語教育		(金森強)	文芸春秋	82-14	2004-10	pp.330-334						
304	特集;本物の英語力	脳にやさしい英会話レッスン	脳が英語を習得する自然なプロセスとは?		(川島隆太)	文芸春秋	82-14	2004-10	pp.311-316						
305	特集;本物の英語力	中高年「駅前留学」ガイド	玉石混淆の英会話学校, 選択のポイントは?		(椎名玲)	文芸春秋	82-14	2004-10	pp.324-329						
306	特集;本物の英語力	通勤電車で学ぶ「英語 超 勉強法」	ビジネスマンに必要なのは「聞き取る」ことだ		(野口悠紀雄)	文芸春秋	82-14	2004-10	pp.298-304						
307	特集;本物の英語力	キャノン社長の「英語と私」	米市場にとび込んだ, 私のビジネス英語武者修行		(御手洗富士夫)	文芸春秋	82-14	2004-10	pp.306-310						
308	特集;本物の英語力	TOEIC はなぜ英検に勝った	世界中のテストを牛耳る団体「ETS」の正体		(和田秀樹)	文芸春秋	82-14	2004-10	pp.317-323						
312	特集;本物の英語力	<対談>感動する英語を話すには	日本人の「音色」を鳴らしながら英語を話そう		(藤原正彦;近江誠)	文芸春秋	82-14	2004-10	pp.335-341						
313	40歳を過ぎてからの大人の脳の鍛え方				(川島隆太)	新潮	45	23-7	2004-7	pp.158-164					
319	40歳からでも遅くないビジネス英語習得10段階レッスン				(斎藤孝)	文芸春秋	82-2	<On Business 1月臨時増刊号>	2004-2	pp.128-132					
321	60歳を過ぎても私の実践的「超」英語法				(野口悠紀雄)	現代	38-5		2004-5	pp.252-259					
344	『ユースプログレッシブ英和辞典』『小学館・ケンブリッジ英英和辞典』刊行記念									新しい英語学習のための新しい辞書を	(投野由紀夫)	本の窓	27-2	2004-2	pp.24-27

「新聞記事」概観

新聞に見られた日本語をめぐる状況

新聞は広く一般に読まれている媒体であり、そこには、事実の伝達、解説、投書など多様な記事が掲載されていて、その時々々の社会の状況や動きの一端が反映されています。国立国語研究所で作成している「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」を資料として、2004年の日本語をめぐる状況を見てみます。

なお、ここでは、「日本語をめぐる状況」の中でも、目立った動きや変化があった話題を中心に取り上げました。また、ここで紹介した新聞記事は、それぞれの話題に関する記事を網羅しているわけではなく、主なものだけをあげています。各話題についての各新聞社の報道全体を過不足なく反映するものではないことに御留意ください。

「平成の大合併」に伴い、新しい自治体名が続々と誕生し、特に、ひらがなの自治体名が急増しました。一方で、住居表示法が施行されてから消えた「由緒ある」旧町名を復活させる動きも出てきました。

人の名前についても新しい動きがありました。子どもの名前に用いることのできる漢字（人名用漢字）の範囲の拡大について、法制審議会人名用漢字部会が見直した結果、488字が追加され、人名用漢字は計983字になりました。

外来語をめぐることは、国立国語研究所「外来語」委員会が2002年の設置以来、言い換え提案を行ってきましたが、2004年はその第3回提案がありました。

言葉の言い換えは外来語以外についても行われ、厚生労働省が検討会を設置し見直しを行った結果、「痴呆」は「認知症」へと名称変更されました。

医師と患者のコミュニケーションに関する記事も多くなり、診察で「心通う対話」を実現するため大学で指導が行われたり、難しい専門用語を患者に分かりやすく工夫したりすることが紹介されました。

子どものコミュニケーションについても大きな出来事が2つありました。6月、長崎・佐世保で小6 女児が同級生の女児に切りつけられ死亡するという事件が起き、チャットや掲示板への書き込みが事件の引き金になった可能性があるとして報じられると、子どものインターネット利用やネット教育などに関する記事が目立つようになりました。また、日本小児科学会が、テレビを長時間見る子どもは言葉の発達に遅れが見られると発表したことを受けて、不安を訴えたり、対処法を求める声が上がりました。

文部科学省の教育課程実施状況調査（学力テスト）、及び、経済協力開発機構（OECD）の国際学習到達度調査の結果が発表になり、学力、特に読解力を中心に、低下傾向にあるとの調査結果が示されました。

文化審議会の答申では、国語教育の重要性や学校での読書教育の充実の必要性などが指摘されました。また、新しい小学教科書の検定結果では、学習指導要領の範囲を超えるものを「発展的な学習内容」として掲載できるようになり、「学力低下」への不安の声が高まったことに対応したものとなりました。

読書推進運動も活発化し、新聞社が活字推進プロジェクトを作り、フォーラムや講演会を開いたり、学校に著者が出向いて生徒に話をするなどの読書推進運動が展開されました。また、超党派の活字文化議員連盟が基本法制定に向けた活動を計画しました（これを受けて、2005年7月29日、「文字・活字文化振興法」が公布・施行されました）。

英語の教育・学習についての関心もより一層高まりました。特に、小学校の早期英語教育については、中央教育審議会が必修化についての検討を始め、英語教育関係者や識者をはじめとして、様々な

意見が新聞紙上で交わされました。

2004年の世相を現す言葉を見てみると、「流行語大賞」には「チョー気持ちいい」が、そして「今年の漢字」には「災」が選ばれました。また、2004年に生まれた子どもの名前は、男子は「蓮」、女子は「さくら」「美咲」がトップでした。

「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」について

「ことばに関する」記事といっても、記事中の特定の語や表現に着目して収集するのではなく、＜ことばについての意識・意見・解説や、ことばをめぐる状況などを伝えている記事＞を収集の対象としています。2004年に収集された「ことばに関する新聞記事」は、朝日・毎日・読売の3紙（東京本社発行の都区版）を合わせて4,096件でした。

このデータベースは、国語研究所ホームページで公開していて、1949年から2004年までのデータを検索することができます（2006年3月末）。

http://www.kokken.go.jp/katsudo/kenkyu_jyo/sinbun/

新しい自治体名 旧町名を復活

市町村合併を支援する合併特例法の期限が2005年3月末に切れるのをにらんで、2004年は「平成の大合併」の動きが加速し、それに伴い、新しい自治体名が続々と誕生しました。読売新聞では、4月、夕刊で15回に渡り「消えゆく地名」と題する記事が掲載され、また、朝刊の地域面では週1回の連載「地名探訪」があり、東京都区部の各地の地名の由来やそこに住む人々の思いなどが紹介されました。

新自治体の命名のしかたは一樣ではありませんが、注目されるのは、ひらがなの自治体名が急増したことです。これに対しては、「温かい感じ」などと好意的に受け止める意見もありますが、漢字から読み解くことができた歴史や文化が捨て去られてしまうという批判の声も上がりました。

新自治体名にひらがな市町名が増える一方、「由緒ある」「歴史を伝える」旧町名の復活も要望されています。金沢市では、住居表示法が施行されてから消えた旧町名を復活させるため、全国で初めて推進条例が制定されました。

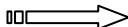
関連文献情報 ⇨ 新自治体名(p58)
旧町名復活(p61)

人名用漢字

戸籍法及び同法施行規則によれば、子どもの名前に用いることのできる漢字は「常用平易」でなければならないとされ、常用漢字表に掲げる漢字 1,945 字、人名用漢字別表に掲げる漢字 285 字（2003 年時点）に制限されています。1990 年には 118 字を追加する改正が行われましたが、人名用漢字の拡大についての要望は少なくありません。また、2003 年には、人名用漢字に含まれない漢字の使用を認める最高裁判所の初判断が示されました。

このような状況で、法務大臣の諮問を受けた法制審議会人名用漢字部会は、578 字を追加するという見直し案を発表し、広く国民から意見を求めました。しかし、この案は、漢字の出現頻度数や、追加の要望の有無・程度などを考慮し、「当該漢字が専ら「常用平易」と認められるか否かの観点から選定を行った」もので、「漢字の意味については一切考慮しなかった」とされていたため、「名前にふさわしくない」漢字が含まれていると、批判や苦情が多く寄せられました。

その結果、「糞」「屍」「呪」などの「不評」漢字は削除され、答申では最終的に計 488 字が新たに使用可能になりました。また、それまで「当分の間用いることができる」として使用を認めてきた常用漢字の旧字体などの異体字 205 字が、許容字体から人名用漢字に格上げされました。これにより、先行して人名用漢字に追加された「曾」(2004 年 2 月)、「獅」(6 月)、「瀧、駕、毘」(7 月)の 5 字とあわせ、人名用漢字は計 983 字となりました。

関連文献情報  人名用漢字(p62)

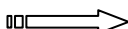
外来語

2002年4月の文化審議会答申、及び5月の経済財政諮問会議でカタカナ英語が多用されたことに対する小泉首相の発言を契機として、同年8月、国立国語研究所は委員会を設置し、「外来語」言い換えの提案を行ってきました。

2004年には第3回発表があり、「ブレイクスルー 突破」「リテラシー 読み書き能力」などの32語について言い換えが提案されました。なお、第2回提案からの継続審議とされた5語のうち、「オンライン」「データベース」「フォーラム」の3語については、「近い将来、定着が予測される」などとして、また、「メセナ」については「固有名詞としての性質も強いので慎重であるべき」などとして、言い換えは行わないことになりました。「ユビキタス」(第2回提案からの継続審議)と「ドメスティックバイオレンス」についてはさらに検討を続けることとなりました。

提案の発表とともに、自治体職員に対して行った外来語に関する意識調査の結果も発表され、「解約よりキャンセル」「ハッピーより幸せ」が好まれるなどの傾向が示されました。

また、2月には、「外来語」を世界的視野で考える国際シンポジウム「世界の<外来語>の諸相 標準化・活性化を目指す言語政策の多様性」が国語研究所の主催で行われ、中国・韓国・ドイツなどの国々での「外来語」の状況や対策、各国独自の問題と解決への模索などが話し合われました。

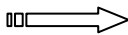
関連文献情報  外来語(p64)

「痴呆」は「認知症」へと名称変更

「痴呆」という呼称に関して、「蔑視的表現で、実態を正確に表しておらず、早期発見・早期診断を妨げる要因になっている」という理由から、厚生労働省が検討会を設置し見直しを行いました。「認知症」「認知障害」「もの忘れ症」「記憶症」「アルツハイマー」「記憶障害」の6案を示して一般から意見を募った結果、「認知障害」が最も多くなりましたが、精神医学用語として既に使われているため、「認知症」が選ばれました。

名前を変えても意識が変わらなければ気休めに過ぎないという意見があるものの、名称の見直しそのものについては賛成の意見が多くなっています。

改称発表から間もない12月6日付毎日新聞の「あなたに聞きたいことがある 日本のスイッチ」欄では、認知症の呼び方について「ピンとこない」86%、「まあ妥当」14%という結果でしたが、その後、厚生労働省が広報を強化したり、新聞各社も「認知症」を用いるように変更するなどしており、今後の広がりが予想されます。


関連文献情報  痴呆名称変更(p66)

医師と患者のコミュニケーション

近年、医師と患者のコミュニケーションに関する記事が増えています。その中には、医師の「何気ない一言」に傷ついたという患者の投書や、病気で不安を抱いている患者やその家族に対して「会話を大切に」「心ある医療」を行うことの大切さを述べているものがしばしば見られます。このような中、医師や医療スタッフ、及びその養成段階においても、「医療はサービス業」という意識の高まりとともに、診察で「心通う対話」を実現するために大学で学生に対して「“接客”指導」を行ったり、難しい専門用語を患者に分かりやすく工夫したりといった配慮がなされるようになりました。

読売新聞朝刊の連載「日本語の現場」の「職場で」編では、近年見たり聞いたりする機会が増えた「患者様」という表現を取り上げ、患者と医師双方の意識や、その表現が使われるようになった背景や状況を探っています。

また、薬品の名前には似たものがありますが、後発の医薬品について名称を統一するなど、取り違えなどの医療ミスを防ぐための方策の講じられるようになりました。

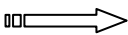
関連文献情報  医療のことば(p67)

子どものインターネット利用やネット教育 テレビ

6月、長崎・佐世保で小6女兒が同級生の女兒に切りつけられ死亡するという事件が起き、チャットや掲示板への書き込みが事件の引き金になった可能性があるとして報じられました。この事件を機に、子どものインターネット利用や、小学校でのネット教育の必要性などを伝える記事が目立つようになり、子ども向けのネットマナー検定なども新設されました。

日本小児科学会が、1歳半の子ども1900人を対象に行った調査の結果から、テレビを長時間見る子どもは言葉の発達の遅れが2倍の割合で見られる、と発表しました。これを受けて、特に母親から不安や懸念を訴え、対処法を求める声が上がりました。

子どものメディア環境が変化する中、文部科学省では、インターネットやテレビゲームが子どものコミュニケーション能力に与える影響などを解明するため、1万人を対象にした10年間の追跡調査が計画されています。

関連文献情報  子どもとインターネット(p69)
子どもとテレビ(p70)


教育課程実施状況調査（学力テスト） 国際学習到達度調査

2004年には、2つの大きな学力調査の結果が発表になり、学力低下、特に読解力を中心に、低下傾向にあるとの調査結果が示されました。

1月、文部科学省は、40年ぶりに行った高校3年生を対象とした教育課程実施状況調査（学力テスト）の結果を発表しました。国語の正答率は事前の想定を約5ポイント上回る71.5%、英語はほぼ想定どおりの59.3%という結果でしたが、数学と理科は想定を大きく下回り45%～50%程度でした。なお、国語については、想定正答率は上回りましたが「話の流れや文章の主題をつかみ、自分の考えをまとめる力が不十分」という指摘もありました。

12月には、経済協力開発機構（OECD）が、国際学習到達度調査の結果を発表しました。加盟国を中心とする41か国・地域の15歳の男女計約27万6千人を対象に実施したもので、2000年度に続く2度目の調査でしたが、「読解力」を中心に、日本の子どもたちの学力が低下傾向にあるとの調査結果が示されました。

これを受けて、文部科学省は「我が国の学力は世界トップレベルとは言えない」との初の認識を示し、2005年夏までに読解力向上のための緊急プログラムを策定することになりました。（2005年10月7日、文部科学省は読解力向上のためのプログラムをまとめました。それによれば、学校では国語だけでなく幅広い教科を通じて、文章や資料を解釈し論理的に思考できる力を養成することなどが示されました。）

関連文献情報  学力調査(p71)

文化審議会の答申 小学教科書の検定

2月、文部科学大臣の諮問機関である文化審議会が答申を出し、国語教育の重要性、学校での読書教育の充実の必要性などを指摘しました。

3月には新しい小学教科書の検定結果が公表され、学習指導要領の範囲を超えるものを「発展的な学習内容」として掲載できるようになりました。前回の2000年度の検定では、「ゆとり教育」や週5日制実施に伴い、学ぶ内容が約3割減らされましたが、今回の検定は、「学力低下」への不安の声が高まったことに対応したものとなりました。

また、東京都世田谷区のように、構造改革特区として「日本語特区」を提案し、小中学校に「日本語」科目を新設し、日本語特有の表現や文化の教育を充実させようとする動きも見られました。

関連文献情報  国語教育の重要性(p72)

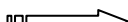
読書推進運動

学力低下の一因として、「読む」ことの軽視や「活字離れ」を指摘する声もあります。新聞社の読書世論調査によれば、1か月に本を全く読まない人が半数いるという結果が出ています。

このような状況で、読書推進運動も活発化しており、超党派の活字文化議員連盟が基本法制定に向けた活動を計画しました。これを受けて、「文字・活字文化振興法」が2005年7月29日に公布・施行されました。その中では、学校教育において、「言語力」すなわち「読む力及び書く力並びにこれらの力を基礎とする言語に関する能力」の育成が十分に図られるよう、国や地方公共団体が積極的に施策を展開することが必要だと示されました。

新聞社でも活字推進プロジェクトを作り、フォーラムや講演会を開いたり、学校に著者が出向いて生徒に話をするなどの読書推進運動が展開されました。例えば、朝日新聞社は「オーサー・ビジット こんにちは作者です！」を、読売新聞社は「活字文化推進フォーラム」を開催しました(いずれも2003年から引き続き行われているものです)。また、毎日新聞社では青少年読書感想文全国コンクールや読書感想画中央コンクールを主催していますが、これらは2004年にそれぞれ第50回と第16回を迎えました。

また、大学図書館や公共図書館では、開館時間の延長や、蔵書のインターネット検索など、サービス向上が図られました。ただし、学校図書館の整備は、財政難などの理由でなかなか進んでいない状況のようです。

関連文献情報  読書推進運動(p73)

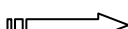
小学校の早期英語教育

TOEIC (Test of English for International Communicationの略称。英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、世界約60か国で実施されています)の2003年度の受験者は142万3000人を記録しました。また、英語で数学や理科などの一般教科を教える授業や、英語で論文を書き、議論できる力を育成を図る授業などが広がりを見せました。そして、文部科学省が重点財政支援を行う現代教育プログラムの中に「仕事で英語が使える日本人の育成」が含まれるなど、英語の教育、学習についての関心は依然として高いものがあります。その一方で、中学・高校の教育現場では、英語担当なのに英会話ができないなど、教師の指導力不足が指摘されたり、ALT(外国語指導助手)の活用について財政難で見直しが行われるなど、課題もあります。

英語の早期教育も活発化し、新聞社等の調査では、小学校の英語教育について賛成意見が多数を占める結果が示されました。文部科学省の調査によれば、総合的な学習の時間などを利用して、公立小の88%が英語活動を行っています。また、「外国語特区」制度を利用し、小学校から「英語漬け」の一貫教育を行う計画も登場しました。

2004年には中央教育審議会が小学校の英語教育必修化について検討を始めることになり、英語教育関係者や識者の意見記事や、読者からの投稿など、それぞれの視点から様々な意見が示されました。例えば、英語教育政策の枠組みの再構築が必要だとして小学校からの一貫教育を提言したり、児童の学習負担や他教科との関連、価値観形成などに十分配慮し、内容や指導法を検討する必要があるとして、小学校で教える内容は、発音や聞き取りなどに徹するべきだという意見などです。また、国語教育の充実をこそ要望する意見も多く見られました。

小学校の英語必修化についての議論は本格的に始まったばかりであり、今後どのように進んでいくのが注目されます。

関連文献情報  早期英語教育(p76)

流行語大賞

自由国民社『現代用語の基礎知識』が選んだ 2004 年の「ユーキャン流行語大賞」の大賞には、アテネオリンピック競泳の金メダリスト北島康介選手の「チョー気持ちいい」が選ばれました（この賞は 1984 年の創始から 2003 年までは「日本新語・流行語大賞」という名称で知られていましたが、2004 年から「現代用語の基礎知識選／ユーキャン流行語大賞」と改称されました）。また、オリンピック銅メダリストの浜口京子選手と父親のアニマル浜口さんの「気合だー！」もトップテンに選ばれ、2004 年のオリンピック・イヤーを反映したものとなりました。このほか、トップテンには「サプライズ」「自己責任」「新規参入」「セカチュー」「中二階」「って言うじゃない...残念!!... 斬り!」「負け犬」「冬ソナ」が入りました。

自由国民社のホームページでは、授賞式の模様とことばの解説のほか、第 1 回（1984 年）から第 21 回（2004 年）までの、年度別の授賞記録（ことばと受賞者）が掲載されています。

<http://www.jiyu.co.jp/singo/>

関連文献情報  世相を表すことば(p78)

今年の漢字

財団法人日本漢字能力検定協会が全国公募で選ぶ「今年の漢字」は「災」に決まりました。1位になった「災」は2万票余りを集め、2位の「韓」に1万4千票以上の大差をつけ、応募総数の2割を超えました。台風や地震などの天災、イラクの人質殺害や子どもの殺人事件などの痛ましい人災が多発したことが理由に挙げられました。また「来年こそは転じて福に」という願いも込められています。

ちなみに、過去の「今年の漢字」を振り返ってみると、以下の漢字が選ばれています。

震(1995年)、食(1996年)、倒(1997年)、毒(1998年)、末(1999年)、金(2000年)、戦(2001年)、帰(2002年)、虎(2003年)

日本漢字能力検定協会のホームページには、2004年の「今年の漢字」に「災」を選んだ応募者の声や、過去に選ばれた「今年の漢字」と説明などが掲載されています。

<http://www.kanken.or.jp/kanji/kanji2004/kanji.html#C>

関連文献情報  世相を表すことば(p78)

2004年に生まれた子どもの名前

毎年、年末になると、明治安田生命保険が個人保険・個人年金保険の加入者を対象に行った生年別名前調査の結果を基に、その年に生まれた子どもの名前の上位が新聞紙上で紹介されます。2004年は、男子は「蓮」、女子は「さくら」「美咲」がトップでした。

ちなみに、2004年のベストテンは、以下のとおりでした。

男子：1位「蓮」、2位「颯太」、3位「翔太」「拓海」、5位「大翔」、6位「颯」、7位「翔」「優斗」「陸」、10位「翼」

女子：1位「さくら」「美咲」、3位「凜」、4位「陽菜」、5位「七海」「未来」、7位「花音」、8位「葵」「結衣」、10位「百花」「ひなた」

明治安田生命保険のホームページには、生年別の「名前ベスト10」も掲載されていて、明治45年・大正元年（1912年）から平成16年（2004年）までの、男女別の名前ベストテンを見ることができます。

<http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/etc/ranking/>

関連文献情報  世相を表すことば(p78)

新自治体名

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

つがる・さくら・さいたま・さぬき... ひらがな市町、急増 平成大合併で20が仲間入り 温かい感じ 歴史を無視 【2/5 朝日 夕刊 p.1】

声 自治体の名称 なぜひらがな 【2/20 朝日 朝刊 p.14 オピニオン】

新日本地図 平成の大合併1 試される文化と分権 歴史捨て、かな地名が続出 【3/8 毎日 朝刊 p.3】

みんなの広場 市町村合併で旧名消失は寂しい 【4/6 毎日 朝刊 p.4 オピニオンワイド】

地方分権新たな主役 平成の大変革 正念場 市町村合併加速 「九十九里市」「四万十市」「良寛町」 ユニーク名称次々 電子投票条例存続危うし!? 【4/30 読売 朝刊 p.16】

気流 歴史を踏まえた自治体の名前を 【5/31 読売 朝刊 p.12 投書】

みんなの広場 市町村合併、吸収される側の思い〔地名〕 【6/7 毎日 朝刊 p.5 オピニオン】

文化 金曜コラム 愚劣な新自治体名減らす方法 【6/11 読売 夕刊 p.4】

とうきょう 旧町名を後世に残そう！ HP開設や商品開発 台東区が事業費助成 【8/1 毎日 朝刊 p.25】

気流 旧市町村の史料ぜひ残す努力を〔自治体名〕 【8/5 読売 朝刊 p.13 投書】

自治体サミット解散続々 「平成の大合併」改名で「縁」切れ 「培った友情忘れない」 80年代に相次ぎ誕生 【9/2 読売 朝刊 p.37 社会】

声 土地の特徴が浮かぶ地名に 【9/28 朝日 朝刊 p.12 オピニオン】

再編日本地図 平成の大合併本格化 4月までに1000市町村「消滅」〔十月の合併にはユニークな命名が多い〕 【10/1 読売 朝刊 p.37 社会】

マルチういんどー 市町村合併 消える出身地名 【11/20 毎日 朝刊 p.24 とうきょうワイド】

再編日本地図 消える名残る名 合併で 4市が誕生12月 中津江「村」は存続、「馬籠」は復活 【12/1 読売 朝刊 p.37 社会】

生活 読者と 疑問解決モンジロー 町の名は...マチ?チョウ? 東にマチ、西にチョウ 昔の名前は出しません〔合併で変更したところも〕 【12/4 朝日 朝刊 p.34 生活】

「越前」3市町隣接 福井で来年合併、新たに2つ 「紛らわしさ」より知名度 【12/20 朝日 朝刊 p.3 総合】

クローズアップ2004 破談も相次ぎしこりに 市町村合併、最終局面迎え 平泉、湯陶里幻に 新市名めぐりトラブル 住民投票325件ストップ例多く 【12/26 毎日 朝刊 p.3】

連載「消えゆく地名」

文化 消えゆく地名1 歴史、文化の軽視目立つ新名称 【4/26 読売 夕刊 p.4】

文化 消えゆく地名2 氏家・喜連川 さくら 公募ゆえの安易さ 【4/27 読売 夕刊 p.4】

文化 消えゆく地名3 「みさと」に未来を託せるか〔各地に多くある安易な命名〕 【4/28 読売 夕刊 p.6】

文化 消えゆく地名4 いなべ みなべ 東そのぎ 難読を避ける風潮 【5/10 読売 夕刊 p.4】

文化 消えゆく地名5 知名度、経済発展を優先 葬られた歴史と文化 【5/11 読売 夕刊 p.4】

文化 消えゆく地名6 一部地域だけで「飛騨市」 抜け駆けに猛反発 【5/12 読売 夕刊 p.4】

文化 消えゆく地名7 頭の文字から「ひらなみ市」 民意に反し混乱 【5/17 読売 夕刊 p.4】

- 文化 消えゆく地名 8 「信州宣言」実は歴史的名称の軽視? 【5/18 読売 夕刊 p.4】
 文化 消えゆく地名 9 駅名はイメージ優先 【5/19 読売 夕刊 p.4】
 文化 消えゆく地名 10 明確な命名基準ない日本 【5/24 読売 夕刊 p.6】
 文化 消えゆく地名 11 国連勧告40年近く無視 【5/25 読売 夕刊 p.4】
 文化 消えゆく地名 12 元凶は「住居表示法」 【5/26 読売 夕刊 p.4】
 文化 消えゆく地名 13 険しい復活への道のり 【5/31 読売 夕刊 p.4】
 文化 消えゆく地名 14 「名称変更で発展」は幻想 【6/1 読売 夕刊 p.4】
 文化 消えゆく地名 15 歴史踏まえた新名称に 【6/2 読売 夕刊 p.4】

連載「地名探訪」

- TOKYOホームページ 地名探訪 浅草猿若町(あさくささるわかまち)(現・台東区浅草六丁目) 歌舞伎街 広重も描く 【4/7 読売 朝刊 p.32 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 淀橋(よどばし)町(現・新宿区西新宿、北新宿ほか) 摩天楼はるかに牛の声 【4/21 読売 朝刊 p.31 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 栗林(くりばやし)(現・小金井市東町四丁目) 幕府に献上「小金井のクリ」 【4/28 読売 朝刊 p.32 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 寺島町(てらじまちょう)(現・墨田区東向島、墨田ほか) 文化の香りとあやしさと 【5/26 読売 朝刊 p.29 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 神田連雀(かんだれんじゃく)町(現・神田須田町1丁目の一部、淡路町2丁目の一部) 消えた地名三鷹に残る 【6/2 読売 朝刊 p.32 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 木挽町(こびきちょう)(現・銀座一丁目-八丁目の一部) 歌舞伎の文化今に伝える 【6/16 読売 朝刊 p.31 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 霊巖(れいがん)町(現・白河一、三丁目、三好一-三丁目、平野一、二丁目) 繰り返す焼失と再生 【6/23 読売 朝刊 p.36 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 仲御徒(なかおかち)町(現・台東区上野三丁目の一部と同五、六丁目) 戦争で長屋消え宝飾街に 【6/30 読売 朝刊 p.31 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 五分一(ごふいち)(現・江戸川区松島一、二丁目周辺) 音頭に残る田園風景 【7/7 読売 朝刊 p.27 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 島屋敷(しまやしき)(現・三鷹市新川四、五丁目) 団地建て替えて実在証明 【7/21 読売 朝刊 p.35 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 根津藍染町(ねづあいぞめちょう)(現・文京区根津二丁目の一部) 染屋消えても「藍」途絶えず 【7/28 読売 朝刊 p.33 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 下谷長者町(したやちょうじゃまち)(現・台東区上野三、五丁目の一部) 唸る鐘と金聞きながら 【9/1 読売 朝刊 p.35 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 尾張町(おわりちょう)(現・中央区銀座五、六丁目) 粋とハイカラ集う交差点 【9/8 読売 朝刊 p.31 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 千住八千代町(せんじゅやちよちょう)(現・足立区梅田一、三丁目の一部) 街のシンボル「お化け煙突」 【9/29 読売 朝刊 p.31 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 矢ヶ崎村(やがさきむら)(現・調布市国領町七、八丁目) 鍛冶屋の響き遠くなり 【10/6 読売 朝刊 p.31 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 本所松阪町(ほんじよまつざかちょう)(現・墨田区両国二、三丁目) 忠臣蔵無念の「敵役」も供養 【11/3 読売 朝刊 p.33 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 浅草象潟(あさくさきさかた)(現・台東区浅草三-五丁目の一部) ルーツとの交流平成に復活 【11/17 読売 朝刊 p.34 地域】
 TOKYOホームページ 地名探訪 桑川(くわがわ)町(現・江戸川区東葛西一、中葛西二丁目) 「江戸前」の記憶次代へ 【12/1 読売 朝刊 p.33 地域】

TOKYOホームページ 地名探訪 丸山福山町(まるやまふくやまちょう)(現・文京区西片と白山の一部) 武家の威風刻む一葉碑 【12/15 読売 朝刊 p.33 地域】

旧町名復活

欄名	見出し	〔備考〕	【掲載日	掲載紙名	朝夕刊の別	掲載ページ	掲載面名または別刷の名称	著者名】
----	-----	------	------	------	-------	-------	--------------	------

由緒ある旧町名取り戻せ！ 全国初 復活条例 金沢市が今春制定【1/5 読売 夕刊 p.1】
気流 由緒ある地名を見直してほしい【1/8 読売 朝刊 p.13 投書】
気流 復活を期待する 歴史伝える地名〔1月8日付投書「由緒ある地名を見直してほしい」に
対して〕【1/27 読売 朝刊 p.14 投書】
都民版 渋谷区 旧町名の復活検討 常磐松町 若木町... シンポや審議会も【6/3 読売 朝刊
p.28 地域】
列島発 石川〔金沢市で旧町名の「六枚町」が約40年ぶりに復活〕【6/4 読売 朝刊 p.37
社会】
社説 旧町名復活 広がる自治体の取り組み【7/5 読売 朝刊 p.3 総合】
気流 広がってほしい 古い町名の復活【11/3 読売 朝刊 p.10 投書】

人名用漢字

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

- 人名用漢字大幅追加へ 法相会見 省令改正検討 【1/27 読売 夕刊 p.18】
- 人気の500 - 1000字追加へ 人名漢字 「凜」君「絆」君OK? 【2/11 読売 朝刊 p.1】
- スキャナー おじいちゃんの名から1字取りたいのに... 親心が増やす? 人名漢字 法制審検討
法務省、リスト作成中 専門家の意見 命名研究家の田宮規雄さん 選択肢が少な過ぎる 国立国
語研究所の甲斐睦朗所長 追加の幅は抑えて 【2/11 読売 朝刊 p.3 総合】
- 莓・庵・撫・鷲 使用可能に 人名漢字578字追加 法制審部会見直し案 【6/11 朝日 夕刊
p.1】
- 潜水士の長男だから「舵君」 こだわり命名ようやく実現 578字追加 戸籍実務、影響も 排
除必要な字も 漫画家のやくみつるさんの話 子の立場考慮を 家裁参与員の経験もある中川
淳・広島大学名誉教授(民法)の話〔コンピューター化に伴う難字処理の問題も〕 【6/11 朝
日 夕刊 p.15】
- 「えっ、こんな字も」 人名漢字見直し案 識者ら賛否両論 解説 命名権に一石 幅広い論議を
【6/11 毎日 夕刊 p.12】
- 名前に莓、橙、蕾OK...癌、姦、糞、≡も 法制審部会〔≡=「嘘」の異体字〕 【6/11 読売
夕刊 p.1】
- 人名用漢字追加案 「より広い選択に」 野沢法相 【6/12 朝日 朝刊 p.34 第2社会】
- 「名」巡り議論 「人格に影響」「制限不要」 屍・糞・姦もOK なぜ? 専門家の声【6/12 読売
朝刊 p.37 社会】
- あなたに問いたいことがある 日本のスイッチ 第80回 結果発表 小泉首相、「人生いろい
ろ」など最近の発言は おもしろい24% 誠実さが無い76% 「呪」や「癌」などを、人名
漢字に含めるのって 変だと思う85% それもあり15% 【6/21 毎日 朝刊 p.26】
- 日本語の現場 特別編 人名漢字(上 「常用平易」385冊で証明? 【6/23 読売 朝刊 p.37
社会】
- 日本語の現場 特別編 人名漢字(中 「体」の部位多いワケ〔追加案の漢字 出現頻度調査対
象の出版物の偏り〕 【6/24 読売 朝刊 p.37 社会】
- 日本語の現場 特別編 人名漢字(下 ママ携帯で「感字」る〔若い世代にとっては漢字の意味
は二の次〕 【6/25 読売 朝刊 p.37 社会】
- 私の視点 ウィークエンド 人名漢字追加 国語表記全体の見直しを【6/26 朝日 朝刊 p.15
オピニオン 白川 静(しらかわ しずか)】
- みんなの広場 人名用漢字、丸投げにあきれる〔見直し案の不適切な漢字〕 【7/2 毎日 朝刊
p.4 オピニオンワイド】
- 人名漢字見直し緊急アンケート 大修館書店 【7/6 毎日 朝刊 p.21】
- 糞 屍 呪 癌 姦..... 候補に苦情600件 不評人名漢字削除へ 「掬」「曠」など追加要望も
【7/10 読売 朝刊 p.1】
- 瀧・毘・駕 人名漢字に追加 【7/13 朝日 朝刊 p.3 総合】
- 人名漢字 異体字OKの波紋 例えば... 遥と遙 どっちが親字? 戸惑う辞書業界 【7/15 読売
朝刊 p.37 社会】
- 時時刻刻 人名578字行政狼狽(ろうばい) 漢字文化翻弄(ろう) 追加案に異論続出 「莓」
「舵」...難字も山ほど 音や画数「感覚」優先 【7/20 朝日 朝刊 p.2 総合】
- 糞屍呪癌姦淫怨痔妾 「不評」まず9文字削減 人名追加案 残りは来月結論 「掬」は新たに追
加 【7/24 朝日 朝刊 p.3 総合】

法制審 人名漢字部会 糞屍呪癌姦淫怨痔妾 削除決定 蔑膿娼骸尻嘘腫罵..... 結論出ず 国民
意見反映 制約に異論も 【7/24 毎日 朝刊 p.1】

「掬水(きくみ)」すくわれた 人名漢字 要望多く追加 【7/24 読売 朝刊 p.39 社会】

「意味」も選定基準に 「不評」人名漢字、大幅削除 解説 【8/14 読売 朝刊 p.29 社会】

人名漢字追加など答申 法制審議会〔p.4に答申の要旨あり〕 【9/9 読売 朝刊 p.2 総
合】

新人名漢字27日から使用可能 【9/14 読売 朝刊 p.37 社会】

人名漢字 「遙」と「遥」どちらも使えます 異体19字同格扱いに 【9/25 読売 夕刊 p.2】

解説 人名漢字拡大 「標準字」で法務、文科省対立 今後は「字体の指標にせず」 【9/30 読
売 朝刊 p.13 解説】

人名漢字追加受け名前変更申し立て〔「掬水(きくみ)」〕 【10/1 読売 朝刊 p.38 社会】

「かじ」君、やっと「舵」君に 人名用漢字に追加 現在2歳両親の活動実る 【10/4 朝日 夕
刊 p.19】

「掬水」ちゃん 名前変更許可 さいたま家裁が両親に通知 【11/2 読売 朝刊 p.37 社会】

外来語

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

- 論陣論客 カタカナ語言い換え 倉島節尚(くらしまときひさ)さん 理解を助けるお手伝い 平田(ひらた)オリザさん 国主導の提案に違和感〔単語でなく文章の問題 女性上司の適切な言葉遣いの指針がほしいとも〕【1/27 読売 朝刊 p.14 投書】
- 気流 日本語での表現心掛けてほしい〔テレビなどで使われる「コラボレーション」と「リーズナブル」が耳障り〕【2/2 読売 朝刊 p.13 投書】
- 文化 国際的視野で外来語考える 来月、シンポ〔国際シンポジウム「世界の「外来語」の諸相 標準化・活性化を目指す言語生活の多様性」〕【2/24 読売 夕刊 p.15】
- 世界の「外来語」 21日に国際シンポ〔国際シンポジウム「世界の「外来語」の諸相」〕【3/4 毎日 夕刊 p.8】
- 文化 国立国語研究所国際シンポを前に 「外来語」世界的視野で考察 流入に各国いかに対処【3/8 読売 夕刊 p.17 甲斐 睦朗(かい むつろう)】
- ダブルクリック 図書館にて〔検索カードが撤廃されパソコンが並ぶようになった都立中央図書館 図書館で日本語でない「クリック」が使われるとは〕【3/30 毎日 夕刊 p.6 高橋 順子】
- 文化 外来語の悩み 世界共通〔国語研究所主催国際シンポジウム「世界の「外来語」の諸相 標準化・活性化を目指す言語政策の多様性」〕【4/6 読売 夕刊 p.4】
- 声 カタカナ語の乱用に抗して【4/20 朝日 朝刊 p.12 オピニオン】
- 夕閑コラム 東京のメトロ〔「東京メトロ」や「アクロポリス東京」というビル、「パンテオン」というマンションなどの外国語の使い方 言い方が単純化しすぎて考えがわからない小泉首相】【4/23 毎日 夕刊 p.4】
- 声 カタカナ語で日本語豊かに【5/10 朝日 朝刊 p.10 オピニオン】
- みんなの広場 カタカナ言葉は高齢者に不親切【5/28 毎日 朝刊 p.7 オピニオンワイド】
- 日本語の現場 職場で47 カタカナ語言い換え進む〔杉並区広報〕【6/15 読売 朝刊 p.37 社会】
- 外来語言い換え案33語 メセナ、フォーラム...4語断念 国立国語研【6/30 朝日 朝刊 p.34 第2社会】
- 言い換え提案第3弾 ユニバーサルデザインは万人向け設計 「オンライン」,「フォーラム」は断念 国立国語研究所【6/30 毎日 朝刊 p.29】
- スキャナー 解約よりキャンセル ハッピーより幸せ 好みの表現分かれる 外来語意識調査 政治・経済、医療、ITもっと言い換えを 「提案」知っている 自治体職員の3割【6/30 読売 朝刊 p.3 総合】
- 声 意味が不明の横断幕をなぜ〔「首都高速道路湾岸線、環境ロードプライシング実施中」という横断幕〕【7/2 朝日 朝刊 p.12 オピニオン】
- 論点 カタカナ語 説明添えて「共生」しよう〔国語研究所「外来語」委員会で検討されている言いかえが有効かどうかは疑問〕【7/9 読売 朝刊 p.13 投書 坂本 充(さかもと みつる)】
- あなたに聞きたいことがある 日本のスイッチ 第83回 結果発表 「も」の書き順は、たてが先 「オンライン」などの日本語言い換え断念は 別に構わない82% 言い換え希望18% メールやチャットで、つい感情的になった経験が あります39% ないです61% ひらがなの「も」、あなたの書き順は たて線から70% よこ線から30%【7/12 毎日 朝刊 p.18】
- 声 言い換えより配慮ある文を〔国立国語研究所による外来語の言い換え〕【7/15 朝日 朝

刊 p.14 オピニオン】

私の視点 ウィークエンド 外来語 優れた表記の伝統復活を〔中国語化した日本語の外来語〕

【7/17 朝日 朝刊 p.14 オピニオン 王 瑞来(おう ずいらい)】

みんなの広場 みなさん、ここは日本ですよ!〔外来語を多用して外国人のまねをする人が前にもまして増加しているようだ〕【9/27 毎日 朝刊 p.5 オピニオン】

外来語言い換え32語最終案発表 「DV」は先送り【10/9 朝日 朝刊 p.37 第3社会】

外来語言い換え 国語研が32語の最終案 ドメスティックバイオレンス 次回検討に先送り【10/9 毎日 朝刊 p.26】

カタカナ語言い換え 第3弾発表 ブレークスルー 突破 リテラシー 読み書き能力【10/9 読売 朝刊 p.38 社会】

よみうり寸評〔国語研究所による分かりにくい外来語の日本語への言い換え〕【10/9 読売 夕刊 p.1】

新日本語の現場231 「脱カタカナ語」の心遣い〔ラジオの言葉 フリーアナウンサー大沢悠里さん〕【11/6 読売 夕刊 p.18】

「痴呆」名称変更

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

- 「痴呆」の呼称変更 厚労省、検討会設置へ 【4/20 読売 朝刊 p.3 総合】
- みんなの広場 「痴呆」に代え、美しい名前を 【5/11 毎日 朝刊 p.4 オピニオンワイド】
- みんなの広場 「二度童子」…懐かしい母と再会〔「痴呆」に「二度童子」という呼び方がある〕
【5/25 毎日 朝刊 p.4 オピニオンワイド】
- みんなの広場 「痴呆」に美しい呼称、気休めだ〔5月11日付投書「「痴呆」に代え、美しい名前を」に対して〕 【5/28 毎日 朝刊 p.7 オピニオンワイド】
- 「痴呆」新呼称6案を提示 厚労省が意見募集 【9/2 読売 朝刊 p.2 総合】
- くらし 家庭 痴呆と生きる9 「私たちも仲間支援しよう」 介護家族の会に患者も参加〔日本では今「痴呆」という言葉の見直しが検討されているが英国でも同じ変化がある〕 【9/11 読売 朝刊 p.21 くらし】
- 土曜茶論(さろん) 痴呆 私はこう呼びたい 愛を込めて…ぼけ 童(わらべ)返り 宇宙人
【9/11 読売 夕刊 p.14】
- 「痴呆」改め「認知症」 「蔑視的」指摘で厚労省が変更へ 【11/20 朝日 朝刊 p.1】
- 「痴呆」改め「認知症」に 厚労省検討会方針 来年から使用へ 【11/20 読売 朝刊 p.38 社会】
- みんなの広場 「認知症」当然 大きい言葉の力 【12/9 毎日 朝刊 p.6 オピニオンワイド】
- 気流 希望をもたらす「認知症」の採用 【12/17 読売 朝刊 p.13 投書】
- 「痴呆」、「認知症」に改称 厚労省、広報強化へ 【12/25 朝日 朝刊 p.3 総合】
- 「痴呆」を「認知症」に 厚労省が用語変更通知 おことわり 表記「認知症」に 【12/25 毎日 朝刊 p.2】
- みんなの広場 「見下された感じ」指摘もっとも〔12月9日付投書「「認知症」当然 大きい言葉の力」に対して〕 【12/25 毎日 朝刊 p.4 オピニオンワイド】
- 「痴呆」から「認知症」 早期治療へ呼称を変更 【12/27 朝日 朝刊 p.9 オピニオン】

医療のことば

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

絵門ゆう子のがんとゆっくり日記 言葉が大切「心ある医療」【3/4 朝日 朝刊 p.30 第2
東京 絵門 ゆう子】
世界の鼓動 安全な医療を求めて2 ヒューマンエラー 似ている薬品名ミス誘う【3/8 朝日
夕刊 p.3】
ぴーぷる 米の社会学者 医療に必要な会話分析普及〔ダグラス・メイナードさんが講演〕【3/13
朝日 夕刊 p.2】
医師と患者のコミュニケーション術 心通う対話を 来年から 医学生の実験開始 面接能力
もチェック 医師は... 胸痛、部位...同音異義語に戸惑い/「大病は？」...とらえ方に違いも 患
者は... 「私」主語で簡潔に【4/5 毎日 朝刊 p.19】
病院がわかる 第1部 医師という職業1 腕の差 「聞き上手」が決め手 患者から「正しい情
報」 同じ土俵に下り技量欠く医師も大学で対話指導【4/26 毎日 朝刊 p.14】
生活 安心 今週のもの?! 病院の掲示、中身は何? 専門用語が多くて難しい 解く 医療の
「質」知る手がかりに 論じる 工夫したいで分かりやすく【4/28 朝日 朝刊 p.16 生活】
病院がわかる 第1部 医師という職業5 腕の差 学ぶべきは心構え 技術向上だけでなく研修
医の2年間 米田正始 京都大教授 聞く耳を持つ医者になれ【5/24 毎日 朝刊 p.17】
病院がわかる 第1部 医師という職業6 腕の差 もっと話聞いて 「対話」求める患者 多忙
に悩む医師 患者の声 医師とその家族の声【5/31 毎日 朝刊 p.12】
後発医薬品の名称統一 厚労省方針 取り違え防止、普及促進【7/2 読売 夕刊 p.18】
医見 疑問共感 医師の言葉 患者傷つける何気ない一言【7/26 読売 夕刊 p.12】
気流 医療現場の用語使い方に注意を〔「オベ出し」 増えている「患者様」〕【8/24 読売 朝
刊 p.14 投書】
医療 わたしの医見 会話大切に心のケア【10/4 読売 夕刊 p.12】

連載「日本語の現場」

日本語の現場 職場で29 医療もサービス「患者様」【5/18 読売 朝刊 p.33 社会】
日本語の現場 職場で30 患者に「様」付け「行政指導」【5/19 読売 朝刊 p.33 社会】
日本語の現場 職場で31 サマにならない「患者様」〔歯科医師向け経営誌『アポロニア21』
による調査〕【5/20 読売 朝刊 p.37 社会】
日本語の現場 職場で32 やっぱ「患者さん」〔「さん」づけか「様」づけか〕【5/21 読
売 朝刊 p.33 社会】
日本語の現場 職場で33 医師はしぶしぶ「患者様」【5/22 読売 朝刊 p.33 社会】
日本語の現場 職場で34 「患者様」7割批判的【5/25 読売 朝刊 p.33 社会】
日本語の現場 職場で35 医療現場は「様」反対論【5/26 読売 朝刊 p.33 社会】
日本語の現場 職場で36 「患」を使わぬ心遣い〔「患者様」という言い方についても〕【5/27
読売 朝刊 p.33 社会】
日本語の現場 職場で37 「様」に見合う医療の質は〔「患者様」という言い方〕【5/28 読
売 朝刊 p.37 社会】
日本語の現場 職場で38 「患者」と「様」相性合わず【5/29 読売 朝刊 p.33 社会】
日本語の現場 診察に国語力を 医師の卵「接客」指導 きちんとあいさつ わかりやすい言葉で
会話 薬剤師 模擬薬局で実習も 副作用の説明に工夫 ホスピス医のかたわら、執筆活動や医療
相談に力を注ぐ森津純子さん マニュアル活用を 医師の言葉遣いに関心を持つNHK放送文化

研究所研究員の塩田雄大（たけひろ）さん 専門用語通じない 【6/22 読売 朝刊 p.30】

子どもとインターネット

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

クローズアップ2004 同級生殺害 子供社会をネット侵食 6～12歳、62%利用 専門家
「対人関係苦手になる」 ついていけない大人 ストレス解消が暴走か 脳や心に影響も メール
交換関係を「聖域視」する傾向 【6/3 毎日 朝刊 p.3】

佐世保事件 言葉暴走、ネット会話 怜美さん文集に不安記す 【6/4 朝日 朝刊 p.35 社会】
子供たち「ネット怖い」 励ましたのに反発された 顔見えず気持ちわからぬ 小6に聞く トラ
ブル経験も 「姿見えないのに仲良くできるだろうか」 怜美さん小5の時作文にPCの不安 文
科省が再発防止策 プロジェクトチーム発足 【6/4 毎日 夕刊 p.13】

KODOMO 伝える 佐世保小6事件 小中学生記者座談会 「特別な子」大人が納得したいだ
け メール気持ちが伝わりにくい 命の大切さ親が伝えるべきだ 【6/10 読売 夕刊 p.17】
生活 小6のいま(上 友達関係「世界のすべて」 佐世保事件 同世代の少女たちは とにかく
いなくなって サルに似てる「ムカッ」「自分は二重人格」 心の中で「死ねっ」 少女雑誌投稿
から 地方の「声」多く 約100人にネット調査 4人に1人「書き込みでけんか」〔交換日
記やメール交換〕 【6/12 朝日 朝刊 p.23 生活】

Weekly教育 ネット教育探る小学校 佐世保小6事件 悪口チャット、授業で体験 「マナ
ー集」に関心高まる 排除は無理 賢く利用を メディアと教育の問題に詳しい藤川大祐・千葉大
教育学部助教授(教育方法学)の話 【6/13 朝日 朝刊 p.7】

ネット使用「子任せ」46% 利用した内容「話さず」24% PTA協議会保護者を調査 【6/17
朝日 朝刊 p.3 総合】

ネットやTVゲームどう影響 子供の脳10年追跡調査 06年度から1万人を対象 文科省
〔子どものコミュニケーション能力に与える影響の解明などが狙い〕 【6/30 朝日 朝刊 p.1】

ネットのマナー キミは何点? 子ども向け検定 HPで無料実施 【7/3 朝日 朝刊 p.38
第2社会】

子どもとテレビ

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

- テレビ情報BOX 幼児番組親子で見て！ 内容について会話を 子の様子しっかり観察 0歳で
平日3時間テレビと接触 【2/3 読売 夕刊 p.10】
- 気流 テレビを消して子供との会話を 【2/12 読売 朝刊 p.12 投書】
- 家庭とくらし 子どもとテレビ 接し過ぎはx 心身の発達に影響 ルール作り大切 視聴時間
2-6歳の平均 1日2時間34分 【2/21 読売 朝刊 p.19 生活】
- 子どもはテレビを見ちゃいけないってホント？ 「2歳まで」「1日2時間まで」の謎 「現場感
覚」からの問題提起 ほとんど毎日テレビを見る...96.7% 【2/27 毎日 朝刊 p.15】
- テレビを長時間見る子ども 言葉の発達遅れ2倍の割合で 1歳半1900人調べ裏付け 日本小
児科学会 来月、警告の提言 【3/10 毎日 朝刊 p.1】
- 子育て応援 子どもをテレビから遠ざける方法 小児科学会まとめる ない場所で遊ぶ時間を長く
する おもちゃや絵本で関心をそらす 話し掛けが大事 見るなは言い過ぎ 【4/20 毎日 朝刊
p.17】
- 子育て応援 子どもとテレビ 悩む親 「見せすぎない」小児科医提言に読者投書90通 「胸つ
ぶれそう」「見せっぱなし」が問題 自閉症児への配慮を 【4/21 毎日 朝刊 p.13】
- くらし 家庭 子どもとテレビ再考1 「一方通行」脳の発達阻害 大人からの話しかけ続けよう
長時間視聴言葉に遅れ 【5/11 読売 朝刊 p.19 くらし】
- くらし 家庭 子どもとテレビ再考2 2歳までは視聴控えて 【5/12 読売 朝刊 p.21 く
らし】
- くらし 家庭 子どもとテレビ再考3 ビデオ、ゲームにも注意必要 【5/13 読売 朝刊 p.21
くらし】
- くらし 家庭 子どもとテレビ再考4 孤立した育児背景に 【5/14 読売 朝刊 p.21 くら
し】
- くらし 家庭 子どもとテレビ再考5 「ノーテレビデー」意外に平気 【5/15 読売 朝刊 p.23
くらし】
- ネットやTVゲームどう影響 子供の脳10年追跡調査 06年度から1万人を対象 文科省
〔子どものコミュニケーション能力に与える影響の解明などが狙い〕 【6/30 朝日 朝刊 p.1】
- 子育て応援 テレビ視聴への不安 「2歳以下」の母、より強く 表現への懸念 日に2時間40
分 「提言」6割承知 不安抱くより楽しんで... 大日向雅美・恵泉女学園大教授（発達心理学）
の話 【7/20 毎日 朝刊 p.12】
- 生活 こども 意見x異見 テレビ見せる？ 日本小児科医会「子どもとメディア」対策委員長
武居正郎(たけすえまさろう)さん 消して親子のふれあいを 東京女子医科大教授 小西行郎(こ
にしゆくお)さん 未解明多い発達との関係 私も一言 【9/6 朝日 朝刊 p.25 生活】
- 子ども1300人追跡調査 NHK研究所 言葉の発達に影響 テレビより... 「外遊び」「絵本読
み」 遊び、絵本...50単語の差 視聴時間による差少し 教育番組むしろ好影響？ 2学会「長
時間見せるな」提言 【10/18 毎日 朝刊 p.12】

学力調査

欄名	見出し	〔備考〕	【掲載日	掲載紙名	朝夕刊の別	掲載ページ
				掲載面名または別刷の名称		著者名】

高3 10万人学力テスト 「理数は苦手」鮮明 「勉強嫌い」7割超す〔国語と英語は期待した程度の成績〕【1/24 朝日 朝刊 p.1】

高3学力テスト結果 国・英「良」 数・理「不可」 家で勉強「しない」4割【1/24 読売 朝刊 p.1】

全国高校学力テスト 文科省分析 国語 英語 意識の差=学力格差 受験科目は得点高く 「基礎の基礎」できていない 新学力観の教育 結果出ず【1/24 読売 朝刊 p.27】

「拝啓」正しく書けません 高3の8割 全国一斉学力テスト 「はいはい」「拝敬」など4割超す【7/28 読売 朝刊 p.1】

読解力8位 14位 数学応用力1位 6位 15歳対象のOECD国際調査 3年前比日本下がる 「学力低下傾向認識すべきだ」中山文科相【12/7 朝日 夕刊 p.1】

OECD国際学習到達度調査 数学・論述弱い日本 数学的応用力 6位転落、興味も薄れ 読解力 「できない子」増え14位 結果の冷静な分析必要 「読み書き」下地の指導を 小中高校生の学習相談を行っている市川伸一・東京大学大学院教授(教育心理学)【12/7 朝日 夕刊 p.5】

15歳の読解力低下くつきり 「少ない読書量」重く OECD学習到達度調査 ネット普及話し言葉まん延【12/7 毎日 夕刊 p.9】

時時刻刻 「学力トップ」陥落の衝撃 OECD調査「読解力14位」 読書指導も空回り ゆとり教育、足りぬ時間 韓国「世界一」と高揚、米は危機感【12/8 朝日 朝刊 p.2 総合】

日本の15歳学力ダウン 国際学習到達度調査 読解力の自由記述無解答4割の問題も OECD調査概要 読解力8位 14位 数学的応用力1位 6位 勉強時間短さ目立つ 生徒・校長アンケート 学習動機付け見失う子たち 「教師の質」確保課題【12/8 読売 朝刊 p.37 社会】

国語教育の重要性

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

- 国語教育と読書 充実求めて答申 文化審議会 【「読む」と「書く」に指導の重点】 【2/3 朝日 夕刊 p.14】
- 読める漢字、倍増を提言 文化審議会答申 小学校国語教育「交ぜ書きやめ、ふりがなを」 【2/3 毎日 夕刊 p.1】
- 第5回活字文化推進フォーラム パネルディスカッション 成功する読書術～ビジネスマンへのメッセージ 揺らく時代指針求め 先人の知恵読み取る 言葉が生み出す「指導力」 人間の本质分かる本を 経営者の「肉声」感じる 自分のテーマに2、3年 【2/17 読売 朝刊 p.16 櫻井孝頼(さくらい たかひで), 福原 義春(ふくはら よしはる), 長谷川 智恵子(はせがわ ちえこ), 上田 惇生(うえだ あつお)】
- 巻末ふるく、アニメ風さし絵... 関心引く教科書腐心 国語に落語の「寿限無」 「音読の良さ」 見直す動き 性器の2表現「不適切」と削除 文科省 新教科書公開来月21日から 【3/31 朝日 朝刊 p.37 第3社会】
- 「発展」記述工夫と苦心 新しい小学校教科書 検定意見が集中 国語 漢詩・漢文や旧かな登場 算数 京・垓..無量大数が復活 保健 「性」の扱い厳格化傾向 生活 【図書紹介充実、交ぜ書きの使用は相変わらず】 【3/31 読売 朝刊 p.17】
- 「読書推進へ基本法制定」 活字文化議連が活動計画 【4/3 読売 朝刊 p.34 社会】
- Weekly教育 漢字どこまで使える? 小学校の国語教科書で模索 「ルビ3割」一定の目安 江崎典宏・文科省教科書企画官 【7/25 朝日 朝刊 p.6】
- 東京 世田谷区「日本語特区」提案へ 中学に3科目「表現」など新設 地域運営校も来春開設 【9/3 朝日 朝刊 p.31 東京】
- とうきょう 世田谷区の日本語教育特区申請 若井田正文教育長に聞く 「学力の基盤やコミュニケーション能力つける」 【10/15 毎日 朝刊 p.27】
- 「日本語特区」を世田谷区が提案 小中通し新科目 【10/16 朝日 朝刊 p.35 東京】
- 構造改革特区、「日本語特区」など申請101件 【小中校で日本語特有の表現や文化を学ばせる「日本語」科目新設 世田谷区】 【10/20 読売 朝刊 p.4 政治】
- 「読書推進で知的立国」 活字文化推進会議 5項目アピール 【11/5 読売 朝刊 p.1】
- 日本語教育など特区100件を認定 【世田谷区 小中学校で日本語の表現力や日本文化の教育を充実】 【12/2 朝日 朝刊 p.4 政治・総合】
- 日本語特区など第6次認定100件 【小中学校に「日本語」科目を新設、日本語特有の表現や文化などを学ばせる 東京都世田谷区】 【12/2 読売 朝刊 p.4 政治】

読書推進運動

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

「読書推進へ基本法制定」 活字文化議連が活動計画 【4/3 読売 朝刊 p.34 社会】
本はともだち 広がる図書館ネット検索 家で手続き 近い館で受け取り 予約が倍増 人気本は
4カ月待ち 【2/25 毎日 朝刊 p.11】
「図書館、開館延長を」 中教審分科会 サービス向上必要 【3/30 読売 朝刊 p.2 総合】
国立大「24時間図書館」37% 【4/28 読売 朝刊 p.37 社会】
学校図書館「本離れ」 交付税大幅減のアオリ 購入費2.2%減 自治体アンケート 【5/8 読
売 朝刊 p.1】
本を読もう 「子どもの読書推進」自治体アンケート 学校図書館進まぬ整備 4割超す市区で減
額 学校図書整備費 小中高の7割で一斉読書 予算は標準額の1.4倍 読書推進法作ったが...
財政難で予算化苦悩 交付税減額理由にならぬ 河村文科省に聞く 重点施策 「エベレスト読
書」 「百選」まとめ配布 休日に図書館開放 【5/8 読売 朝刊 p.13】
とうきょう ニュースと話題 読書活動推進法 本紙調査 足立、図書予算に1億 金額、自治体
でばらつき 「朝の読書」で集中力アップ 葛飾・上平井小 読み聞かせなど活動様々 【5/8 読
売 朝刊 p.27 地域】
特集 第58回読書世論調査 紀伊国屋書店 松原治会長に聞く 潮目は変わってきた【10/26 毎
日 朝刊 p.17】
声 読解力向上はまず読書から 【12/21 朝日 朝刊 p.14 オピニオン】

「オーサー・ビジット」

オーサー・ビジット こんにちは作者です！ 読書で養う考える力 作者と授業ワクワク あさの
あつこさん 名古屋 津賀田中 「自分の思い大切に」 工藤直子さん 北海道・苫小牧 清水小
子どもの熱演に拍手 あべ弘士さん 沖縄・具志川 天願小 動物の不思議に迫る 井上ひさしさん
山形・川西第一中 「後輩」に生き方伝授 折原みとさん 群馬 館林女子高 書く面白さ演
じ実感 【1/21 朝日 朝刊 p.16】
オーサー・ビジット こんにちは作者です！ 教室に弾む言葉の生命 谷川俊太郎さん 和歌山・
北山 北山中 掛け合いで詩を朗読 重松清さん 長野・諏訪実業高 心のモヤモヤ本で理解 あ
さのあつこさん 香川・丸亀 西中 ラブレター書き熱気 【2/26 朝日 朝刊 p.16】
オーサー・ビジット こんにちは作者です！ 本読んで学ぶ 出会い育む心 谷村志穂さん 石川
金沢泉丘高 個性見つける朗読 重松清さん 大阪 泉鳥取高 「他己紹介」で互いを知る 折原
みとさん 鹿児島・西之表 住吉中 自由な発想でお話作り 【3/8 朝日 朝刊 p.12】
オーサー・ビジット2004 24人が教室訪問 作者の授業弾む心 本の世界感動新た どんな
ことをするの 詩読み、絵描き...得意分野で交流 来た！見た！話した！ 03年度の訪問校から
小学校 中学校 高校 【5/11 朝日 朝刊 p.20】
オーサー・ビジット こんにちは作者です！ 朝日新聞2004 創刊125周年 著者が先生
視野を広げて夢をかなえて 子供と対話 新聞や本で素材を蓄積 石田衣良さん&豊島岡女子学
園(東京) 言葉は表現の蛇口 角田光代さん&石狩市立生振小(北海道) 落語実演楽しさ実感
桂文哉さん&松本市立岡田小(長野) 音で知る文化の豊かさ 井上ひさしさん&暁星国際学園(千
葉) 【10/22 朝日 朝刊 p.18】
オーサー・ビジット こんにちは作者です！ 著者が先生 子供と対話 自由な発想育む出会い
あさのあつこさん 県立南陽高(山形) 小説の続き思うままに 富安陽子さん 広島市立早稲田
小 絵から広がるお話 【11/24 朝日 朝刊 p.12】

オーサー・ビジット こんにちは作者です！ 作者が先生 子供と対話 膨らむ想像豊かな心に五感で読書楽しんで エミリー・ロッドさん 川越市立川越西小(埼玉) みんなで考え絵本でできた 富安陽子さん 箕面市立西南小(大阪) 物語は「心」を読むこと 上橋菜穂子さん 早稲田実業中・高(東京) 死んだ父への思い詩に 工藤直子さん 豊浦町立小串小(山口) 【12/7 朝日 朝刊 p.16】

オーサー・ビジット こんにちは作者です！ 作者が先生 子供と対話 創造の喜び胸に刻んで 飯野和好さん 豊川市立三蔵子小(愛知) さすらいの朗読に歓声 平田オリザさん 明治学園小(福岡) 自作のお芝居、ウケた！ 折原みとさん 県立平養護学校(福島) 替え歌通し思い伝える 【12/14 朝日 朝刊 p.12】

「活字文化推進フォーラム」

第5回活字文化推進フォーラム 活字で養う対話の力 基調講演 話し言葉だけではダメ 幼時から読書機会を 【2/17 読売 朝刊 p.15 井上(いのうえ) ひさし】

第5回活字文化推進フォーラム パネルディスカッション 成功する読書術～ビジネスマンへのメッセージ 揺らく時代指針求め 先人の知恵読み取る 言葉が生み出す「指導力」 人間の本质分かる本を 経営者の「肉声」感じる 自分のテーマに2、3年 【2/17 読売 朝刊 p.16 櫻井孝穎(さくらい たかひで), 福原 義春(ふくはら よしはる), 長谷川 智恵子(はせがわ ちえこ), 上田 惇生(うえだ あつお)】

第6回活字文化推進フォーラム 読者が育てる人気作家 爆発的ヒットと短命化 80年前後を境に 【5/31 読売 朝刊 p.15】

第6回活字文化推進フォーラム パネルディスカッション ロングセラーとベストセラー 心に平穏生き方変える 本読み人の心を読む 目標はロングセラー 服部 「作家に付く読者」カギ 大沢 日本作家、海外も注目 児玉 「読む人」はかっこいい 大沢 【5/31 読売 朝刊 p.16 大沢 在昌(おおさわ ありまさ), 馳 星周(はせ せいしゅう), 服部 真澄(はっとり ますみ), 児玉 清(こだま きよし)】

第7回活字文化推進フォーラム パネルディスカッション すてきな読書空間づくり 胸を刺す1冊との出会い 環境づくりの原点は家庭 読書知識こそ実利的 石田 図書館が教育の中核 高鷲 6割知的な「無医村」 永井 本の中に様々な人生 米原 【7/27 読売 朝刊 p.26 高鷲 忠美(たかわし ただよし), 石田 衣良(いしだ いら), 永井 伸和(ながい のぶかず), 米原 万里(よねはら まり)】

第8回活字文化推進フォーラム 基調講演 養老孟司(ようろうたけし)さん 北里大大学院教授 読書は脳を活性化〔本当は違うのに脳の中で同じと評価する働きが、人間の脳では強い〕 【10/23 読売 朝刊 p.11】

第8回活字文化推進フォーラム 脳の発達1万人を追跡！ 0歳児と5歳児を5年間 2006年度から文科省調査 絵本や児童書が2000点 第2回子どもの本フェスティバル in おおさか 【10/23 読売 朝刊 p.11】

第8回活字文化推進フォーラム パネルディスカッション「読書の効用を科学する」「脳力」を鍛える 自分自身も変わる まず親から本を読む 川島 心地よい言葉増えた 高木 変化することは爽快 養老 つくる雰囲気伝わる 松田 人生の一助となる1冊 音読老化防止に 川島さん研究成果を報告 【10/23 読売 朝刊 p.12 川島 隆太(かわしま りゅうた), 高木 美保(たかぎ みほ), 松田 哲夫(まつだ てつお), 養老 孟司(ようろう たけし)】

「読書感想文・読書感想画コンクール」

とうきょう 本はともだち 第50回青少年読書感想文全国コンクール1 小学校低学年 本の世界に遊んでみよう 【6/18 毎日 朝刊 p.25 中山 尚美】

とうきょう 本はともだち 第50回青少年読書感想文全国コンクール2 小学校中学年 感動し

- た気持ち残そう 【6/19 毎日 朝刊 p.27 吉野 美恵】
- とうきょう 本はともだち 第50回青少年読書感想文全国コンクール3 小学校高学年 自分を見つめ、感動広げる 【6/22 毎日 朝刊 p.23 諏訪 志げる】
- 本はともだち 第50回青少年読書感想文全国コンクール 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。「感動したら書きたくなった」 第1回で総理大臣賞・平山さん 【6/23 毎日 朝刊 p.12】
- とうきょう 本はともだち 第50回青少年読書感想文全国コンクール4 中学生 切実に胸打つ主題選ぼう 【6/23 毎日 朝刊 p.27 宇田 早百合】
- とうきょう 本はともだち 第50回青少年読書感想文全国コンクール5 高校生 「私」だけの思い伝える戦い 【6/24 毎日 朝刊 p.27 野口 さち子】
- 第50回読書感想文コンクール特集 芥川賞受賞 綿谷りささん テーマを決めて言いたい事を知ることができた「5枚の壁」 カニグズバーグはウーン、粹やった 面白くない本？あります、あります 【6/30 毎日 朝刊 p.14】
- 第50回読書感想文コンクール特集 感想文はあなたの心の写真 【6/30 毎日 朝刊 p.14 河島 弘美】
- 第50回読書感想文コンクール特集 読書の領域を広げ質を高める課題図書 【6/30 毎日 朝刊 p.15 石井 宗雄】
- 第50回青少年読書感想文全国コンクール 豊かな人間性育てる読書 充実させたい学校図書館 目立つ読書離れ ルビつきの本歓迎 学校の蔵書数 司書教諭配置1年 本との出会いは 読書による自己変革 感想文は教育の一環 多様性生かす指導を 【7/4 毎日 朝刊 p.12 石井 宗雄(いしい むねお), 無藤 隆(むとう たかし), 田中 孝一(たなか こういち)】
- 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。 第50回青少年読書感想文全国コンクール 読書の喜び知って 「自分の感じたことを書こう」 【7/28 毎日 朝刊 p.14 北 杜夫】
- 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。 第50回青少年読書感想文全国コンクール 読書の喜び知って 「本の中に入り込むのが楽しい」 昨年の内閣総理大臣賞受賞者 横浜市立川島小3年 原菜里奈さん 【7/28 毎日 朝刊 p.14】
- 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。 第50回青少年読書感想文全国コンクール 読書の喜び知って 言葉大事にする人生を 【7/28 毎日 朝刊 p.14 池田 晶子】
- 本はともだち 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。 第50回青少年読書感想文全国コンクール 第22回で毎日新聞社賞・安東さん 「本の世界との出会いは自分を掘り下げること」 【8/25 毎日 朝刊 p.13】
- 第16回読書感想画中央コンクール ホンヨモ！ 子ども読書推進運動進行中！ 自分らし くのびのび描こう 絵本作家 瀬名恵子さん 先生やおうちの方へ 強制は禁物！ 原作からはみ出して 空想の翼を伸ばそう 【9/22 毎日 朝刊 p.16】
- 本はともだち 青少年読書感想文全国コンクール50回記念 中高生集い一読一会 見つけよう楽しもう 第1部 作家・椎名誠氏と語る 本あり過ぎありがたみ分らず 少年期の読書影響 第2部 なぜ読書するの？ 「読書は人を成長させる」「図書館を目につく所に」【11/24 毎日 朝刊 p.10】
- 特集 読書感想画コンクール ホンヨモ！ 子ども読書推進運動進行中！ 読書感想画中央コンクール応募続々 色付く感動絵筆から 昨年受賞の「先輩」は 面白いから描きたい 小林翔君 石川県鳥屋町立鳥屋小5年 自分が元気になる本 勝志穂里さん 茨城県つくば市立荻崎中3年 悩んだ末の会心作 戸田果里さん 愛媛県立丹原高3年 【12/4 毎日 朝刊 p.19】

早期英語教育

欄名 見出し〔備考〕 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
掲載面名または別刷の名称 著者名】

- 家庭とくらし 「英語 小学校の正式科目に」87% 本社世論調査 【2/14 読売 朝刊 p.23
生活】
- 04年度各区予算案 小学全学年で英語 北区で4月から 年40時間の授業 会話中心 外国人
講師を派遣 【2/20 朝日 朝刊 p.35 東京】
- ちぼうがうごかす 新地動説 特区 高まる熱受け、小学校から学習 「英語漬け」一貫校、来春
登場 群馬県太田市主導で設立 「子供のため」引越す家族も 「早期教育に必然性あるか」
【2/23 毎日 朝刊 p.26】
- 声 へんな日本人 増やさないで〔小学校での英語必修化に反対 外来語の多用についても〕
【2/26 朝日 朝刊 p.14 オピニオン】
- 教育ふぁいる 英語 小学校の正式教科化 教員研修に課題 授業時間ねん出も困難 【3/1 読売
朝刊 p.33 教育】
- 私の注目記事 国際化=英語化ではない〔小学校での英語教育賛成だが国語学習にも時間をかけ
るべき〕【3/6 朝日 朝刊 p.2 be-b 田中 哲二】
- 中教審 4教科に専門部会 小・中・高課程検証 小学校の英語必修化検討 【3/11 読売 夕刊
p.2】
- 私の視点 ウイークエンド 小学校の英語 発音・聞き取りに徹して 【3/20 朝日 朝刊 p.13
オピニオン 中島 平三(なかじま へいぞう)】
- 構造改革特区 誕生1年 教育・農業関心高く PR不足、新たな規制も〔群馬県太田市の「外
国語教育特区」】 【3/29 読売 朝刊 p.4 政治】
- 大丈夫?英語の先生 英検準1級以上 中学1割 高校2割 【3/29 読売 夕刊 p.1】
- 転機の教育 本社・ベネッセ共同保護者調査 教育改革 賛否「まだら」 小学校で英語8割支持
【4/5 朝日 朝刊 p.10】
- 時時刻刻 進む認定「まだ増える」 「指導力不足」教員481人 入試解いて24点 認定前に
退職 やる気重視、表彰も〔英語担当なのに英会話ができないなど〕 【5/1 朝日 朝刊 p.2
総合】
- 教育ふぁいる 探訪 大学法人化の現場から5 人気呼ぶ「英語漬け」の授業〔国際教養大〕
【5/10 読売 朝刊 p.31 教育】
- 教育ふぁいる 探訪 「特区」の現場から3 討論科授業で「聞く姿勢」習得 【5/31 読売 朝
刊 p.31 教育】
- 公立小の88%英語活動実施 文部科学省調査 【6/2 読売 朝刊 p.33 社会】
- 三者三論 小学校の「英語」導入 「早いほどよい」は幻想 【8/27 朝日 朝刊 p.13 オピ
ニオン 大津 由紀雄(おおつ ゆきお)】
- 三者三論 小学校の「英語」導入 親も参加楽しむ授業に 【8/27 朝日 朝刊 p.13 オピニ
オン セイン・カミュ】
- 三者三論 小学校の「英語」導入 世界で活躍するために 【8/27 朝日 朝刊 p.13 オピニ
オン 中嶋 嶺雄(なかじま みねお)】
- 論点 小学校の英語 英語を総合的学習に取り入れる小学校が増えている。必修化の議論もあるが
英語より日本語能力 会話力より中身豊かにする教養が大事 学力低下のいま英語導入の余裕は
ない 【8/30 毎日 朝刊 p.4 和田 秀樹】
- 論点 小学校の英語 英語を総合的学習に取り入れる小学校が増えている。必修化の議論もあるが
共生能力養うために 目的は英語力向上よりも小学生の成長 全科担任の経験を生かして多様な

実践 【8/30 毎日 朝刊 p.4 松川 禮子】

論点 小学校の英語 英語を総合的学習に取り入れる小学校が増えている。必修化の議論もあるが推進論は砂上の楼閣 中学以降に学んだほうがむしろ効果的 しっかりした言語観持つ指導者少ない 【8/30 毎日 朝刊 p.4 大津 由紀雄】

あなたに聞きたいことがある 日本のスイッチ 第92回 結果発表 今では「休火山」や「死火山」と言わないことを 知ってた14% 知らなかった85% 総合学習で英語を教える小学校が増加中 必要だと思う43% 国語が先だ57% 【9/14 毎日 朝刊 p.30】

現代教育プログラム86件に重点財政支援 文部科学省 「仕事で英語が使える日本人の育成」など 【9/24 朝日 夕刊 p.2】

教育ふぁいる 学びの時評 小学校英語課外授業充実を 【9/27 読売 朝刊 p.31 教育 市川 伸一(いちかわ しんいち)】

「小学校で英語 将来は全国に」 文科相、前向き発言 【11/4 朝日 朝刊 p.30 第2社会】
Weekly教育 特区をゆく 英語教育 沖縄県宜野湾市 聞き取る力を最優先に 【11/8 朝日 朝刊 p.6】

私の視点 ウィークエンド 英語 小学校からの一貫教育を 【11/13 朝日 朝刊 p.14 オピニオン 小池 生夫(こいけ いくお)】

Weekly教育 国派遣ALT曲がり角 財政難で見直し 英会話学校が仲介 北海道の自治体に 「現制度は割高」民活で増員例も 【11/14 朝日 朝刊 p.8】

声 小学校の英語現状では無理 【11/18 朝日 朝刊 p.14 オピニオン】

データ 学ぶ [TOEICの2003年度の受験者は142万3000人] 【12/8 読売 朝刊 p.39 社会】

算数も英語で 教科書翻訳来春出版へ 私立校や教育特区視野に 【12/14 読売 朝刊 p.37 社会】

みんなの広場 社会全体で国語教育に関心を 英語教育が盛んになり、外来語が日本語を乱している 【12/23 毎日 朝刊 p.7 オピニオンワイド】

世相を表すことば

欄名	見出し	〔備考〕	【掲載日	掲載紙名	朝夕刊の別	掲載ページ	掲載面名または別刷の名称	著者名】
----	-----	------	------	------	-------	-------	--------------	------

特集WORLD 2004年流行語大賞はさて マイナスの言葉が目立つ年 オリンピックが救い
【11/25 毎日 夕刊 p.2】

大賞「チョー気持ちいい」 今年の流行語 気合だー！・新規参入・冬ソナも入賞 【12/2 朝日
朝刊 p.38 第2社会】

頂点は「チョー気持ちいい」 04年流行語大賞 気合だ！...新規参入...負け犬 セカチュー...冬
ソナ...斬り！ 【12/2 毎日 朝刊 p.27】

康介ふたたび「チョー気持ちいい」 流行語大賞 ベスト10に 気合だー！/新規参入 【12/2
読売 朝刊 p.39 社会】

来年こそは転じて福に 今年の漢字は「災」〔日本漢字能力検定協会発表〕 【12/14 朝日 朝
刊 p.37 第3社会】

雑記帳〔日本漢字能力検定協会が全国公募で選ぶ今年の漢字は「災」〕 【12/14 毎日 朝刊
p.31】

男子は「蓮」、女子は「さくら」「美咲」 04年生まれの名前 明治安田生命が調査 【12/17 朝
日 朝刊 p.38 第2社会】

「さくら」「美咲」ちゃんトップ 名前ベスト10 04年生まれ 男子は自然派の「蓮」君が初
【12/17 毎日 朝刊 p.10】

蓮君、さくら、美咲ちゃん 2004年生まれの子どもの名前〔明治安田生命保険発表の生年別
名前調査〕 【12/17 読売 朝刊 p.38 社会】

第2部 文献目録

「日本語本」一覧の凡例

1. 現在一般に使われている「日本語本」という言葉の指し示すものやそのニュアンスは必ずしも一定ではありませんが、本ブックレットでは次のような意味で使っています（なお、新聞・雑誌からの引用文に見られる「日本語本」は必ずしもこの通りではありません）
「日本語について書かれた図書で、専門書以外の、一般の読者を主な対象としていると考えられるもの（雑誌やその増刊、別冊は除く）」
2. 1であっても以下のいずれかに当てはまるものは原則として除きました。
 - (1) 非売品、私家版など一般の読者が入手しにくいと思われるもの。
 - (2) テキスト・参考書・問題集の類（小中高校の児童・生徒、大学生、外国人日本語学習者を主対象としていること、また入学・就職・各種検定等の試験対策用であることが書名にうたわれているもの）
 - (3) 言葉の使い方に関する実用書（いわゆるハウ・ツーもの）のうち、『結婚披露宴でのスピーチのし方』『年賀状の書き方』など極めて限定的な目的・場面のために書かれたもの。「話のし方」「文章の書き方」一般に関するものは採択しました。
 - (4) 辞典のうち、英和辞典、独和辞典など外国語との対訳辞典、及び古語辞典。国語辞典・漢和辞典はイに当てはまるものを除き採択しました。
 - (5) 『経済用語辞典』『地学事典』など、特定の分野の専門語辞(事)典。『現代用語の基礎知識』のような各分野の専門語を広く収載したものは採択しました。
3. 資料収集は、主に『国語年鑑』2005年版、『日本全国書誌』、『出版年鑑』2005によりました。
4. データの示し方等は、以下の通りです。
 - (1) 1件ごとのデータ構造は、次のようになっています。
分類 | トピック関連文献 | 文献番号 | 書名 | 書名巻次 | 副書名 | 副書名巻次 | 叢書名 | 叢書名巻次 | 副叢書名 | 副叢書名巻次 | 版次 | 著者名 | 発行所 | 発売所 | 発行年 | 発行月 | 判型 | ページ | 本体価格 | 関連記事 | 新聞記事 1~5 |
〔関連記事〕以下については5を御覧ください
 - (2) そのデータが、どの分野に該当するかの情報は、「分類」の項目に示しています。
データは、内容に応じて16の「大分類」に分類しています。その中には、更に「中分類」「小分類」に分類しているものもあります。
分類の項目は、「大分類>中分類>小分類」の順に示しています。
分類についての詳細は、「分類の手引き」を参照してください。
 - (3) トピックで使ったデータについては、「トピック関連文献」の項目にトピックのタイトルが入っています。
5. 採択した図書について、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞（いずれも東京本社版）の3紙において、書評や新刊紹介などで取り上げられている場合、以下のような形でデータを表示しました。
 - (1) [関連記事] 欄に、関連記事の掲載回数を表示しました。
なお、関連記事は、主として読書欄に掲載されたものですが、新刊紹介などで全面広告のページに掲載されているものも対象としました。また、一部、人物紹介欄などで取り上げられた著者紹介の記事を含みます。同じ本について新聞で2回以上取り上げられている場合は、新聞掲載日順に示しました。

- (2) [新聞記事] 欄では、以下の形式で、関連記事の情報を示しました。この記事情報は、国立国語研究所が作成している「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」に収録されたデータを基に作成しています。

 欄名 見出し^(注1) [備考]^(注2) 【掲載日 掲載紙名 朝夕刊の別 掲載ページ
 掲載面名または別刷の名称^(注3) 著者名^(注4)】

^(注1) 見出しのない記事の場合、適宜、見出しを補い、[] を付けて示しました。

^(注2) 見出しだけでは記事の内容が分かりにくい場合に、適宜、補いました。

^(注3) 広告ページに掲載された記事の場合、その面の名称を記載しました。また、別刷の場合、その名称を記載しました。

^(注4) 新聞記者以外の署名記事の場合、その著者（評者）名を記載しました。なお、広告ページで、読者投稿による新刊紹介などを掲載している場合がありますが、それらについては、投稿者の氏名でなく「投書」と記載しました。

なお、この一覧の記事情報の基になった「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」では、掲載年、掲載ページ以外の項目については、全角で入力しています。また、表記については、原則として、新聞に書かれているとおり入力していますが、“ ” や “ ” などの記号は「 」 に置き換えている場合があります。

「総合雑誌」一覧の凡例

1. 総合雑誌(このブックレットでは、「総合雑誌・文芸雑誌・PR誌」のすべてを指して「総合雑誌」と呼んでいます)に掲載された記事の中で、日本語について書かれているものを一覧にしました。

2. この目録を作成するに当たっては、以下の雑誌を調査の対象としました。

(1) 総合雑誌

市販されている総合雑誌のうち、主要新聞に広告が掲載される月刊のものを対象にしました(五十音順)。

『潮』(潮出版社) 『現代』(講談社) 『諸君!』(文芸春秋) 『新潮45』(新潮社) 『正論』(文芸春秋) 『世界』(岩波書店) 『中央公論』(中央公論新社) 『文芸春秋』(文芸春秋) 『Voice』(PHP研究所) 『論座』(朝日新聞社)

(2) 文芸雑誌

市販されている文芸雑誌のうち、主要新聞に広告が掲載される月刊のものを対象にしました(五十音順)。

『群像』(講談社) 『新潮』(新潮社) 『すばる』(集英社) 『文学界』(文芸春秋)

(3) PR誌

日本語学(言語学)・日本文学関係の専門書を発行している出版社のPR誌です。

ただし、国立国語研究所図書館で調査が可能なものだけを対象にしました(五十音順)。

『MYB みやび通信』(みやび出版) 『UP』(東京大学出版会) 『いずみ通信』(和泉書院) 『いずみ三通信』(和泉書院) 『学燈』(丸善) 『汲古』(汲古書院) 『ぐんしょ』(続群書類従完成会) 『ちくま』(筑摩書房) 『中国図書』(内山書店) 『図書』(岩波書店) 『波』(新潮社) 『ひととき』(JR東海エージェンシー) 『本』(講談社) 『本の窓』(小学館) 『本郷』(吉川弘文館) 『未来』(未来社)

3. データの示し方等は、以下の通りです。

(1) 1件ごとのデータ構造は、次のようになっています。

|分類|トピック関連文献|文献番号|特集名|連載名・対談名|記事タイトル|記事サブタイトル|筆者名|雑誌名|巻号|発行年月|掲載ページ|発行所|

(2) そのデータが、どの分野に該当するかの情報は、「分類」の項目に示しています。

データは、内容に応じて16の「大分類」に分類しています。その中には、更に「中分類」「小分類」に分類しているものもあります。

分類の項目は、「大分類>中分類>小分類」の順に示しています。

分類についての詳細は、「分類の手引き」を参照してください。

(3) トピックで使用したデータについては、「トピック関連文献」の項目にトピックのタイトルが入っています。

「新聞記事」一覧の凡例

1. 「新聞記事」概観で取り上げた話題のそれぞれについて、基になった記事の一覧を掲げました。なお、ここで紹介した新聞記事は、それぞれの話題に関する記事を網羅しているわけではなく、主なものを挙げています。各話題についての各新聞社の報道全体を過不足なく反映するものではないことに御留意ください。

2. 一覧にした記事情報は、国立国語研究所が作成している「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」に収録されたデータを基に、適宜、一覧作成のために必要な情報を付け加えたものです。収集対象とした新聞は、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞(いずれも東京本社版)の三紙です。なお、このデータベースの詳細については、このブックレットの「付録」を御覧ください。

3. データの示し方等は、以下のとおりです。

(1) 1件ごとのデータ構造は、次のようになっています。

トピック | 掲載年 | 掲載月日 | 新聞名 | 朝刊夕刊 | 掲載ページ | 掲載面の名称または別刷の名称 | 執筆者属性 | 氏名 | 欄名 | 見出し | 備考 | キー1 | ID番号 |

(2) 各項目には、次のような情報が収録されています。

トピック : 第1部本編の「新聞記事」概観で取り上げた話題のうち、記事が対応する話題。

掲載年 : 記事の掲載年を西暦4桁で示しました。一覧に掲げたデータはすべて「2004」年のものです。

掲載月日 : 記事の掲載月日を、月は1桁または2桁、日は2桁で示しました。

新聞名 : 掲載紙名。「朝日」「毎日」「読売」のいずれか。

朝刊夕刊 : 「朝刊」「夕刊」のいずれか。「夕刊」以外(「日曜版」などの別刷の場合を含む)を「朝刊」として入力しています。

掲載ページ : 記事掲載面の数字。

掲載面の名称または別刷の名称 : 記事掲載面の名称。また、「日曜版」などの別刷の場合は、その名称を示しました。

執筆者属性 : 記事をだれが書いたかによって、「内部」(=記者原稿)、「依頼」(=新聞記者以外の有識者等の依頼原稿)、「投書」(=読者の投稿)、「投書・内部」(=読者からの質問に記者が回答する形で書かれている記事)、「投書・依頼」(=読者からの質問に、専門家・有識者等が回答する形で書かれている記事)の5つに分けて示しました。

氏名 : [執筆者属性]で「依頼」または「投書・依頼」の場合の、執筆者(新聞記者以外の専門家・有識者等)の氏名。また、対談やシンポジウムなどの記事の場合の、出席者の氏名。

欄名 : 記事が掲載されていたコーナーの名称。

見出し : 見出しのない記事の場合、適宜、見出しを補い、[]を付けて示しました。

備考 : 見出しだけでは記事の内容が分かりにくい場合に、適宜、補いました。

キー1 : 分類情報。

* 「日本語本・総合雑誌」の分類とは同じではありません。また、記事の内容が複数の分野にかかわっている場合は、一つの分野に絞ることはせず、対応するすべての分類情報を付けています。

* 「キー1」の詳細は、国語研究所ホームページ上で公開している「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」を御覧ください。

(http://www.kokken.go.jp/katsudo/kenkyu_jyo/sinbun/)

ＩＤ番号：データ管理用のデータ固有の番号。このブックレットで取り上げた記事データに対する通し番号ではなく、2004年の全データ(4,096件)に対する通し番号です。

- (3)この一覧の記事情報の基になった「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」では、掲載年月日、掲載ページ以外の項目については、全角で入力しています。また、表記については、原則として、新聞に書かれているとおり入力していますが、“ ”や “ ”などの記号は「」に置き換えている場合があります。

4. 一覧にある新聞記事を読みたい方は

- (1)縮刷版やマイクロフィルム等が利用できます。

この冊子で取り上げた新聞記事について、記事本文をお読みにになりたい場合には、国立国会図書館や地域の公共の図書館、学校の図書館などに所蔵されている縮刷版やマイクロフィルム等を利用する方法があります。

例えば、国立国会図書館の全国新聞総合目録データベース(<http://sinbun.ndl.go.jp/>)を利用すると、見たい新聞を所蔵している機関や、その機関の連絡先・複写の可否等について情報を得ることができます。

- (2)新聞社や商用の記事データベースを利用する方法もあります。

この冊子で取り上げた朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の三紙については、縮刷版やマイクロフィルムのほか、インターネットやCD-ROM版でも記事を読むことができます(著作権により一部閲覧できない記事もあります)。

インターネットを利用して記事を検索したり閲覧したりするためには、新聞社や検索サービスを行っている会社との契約が必要となったり、利用料金がかかったりする場合があります。また、これらの検索サービスには、個人向けだけでなく、企業・学校向けのコースもあり、学校の授業に利用しやすくするため、検索機能を限定して利用しやすい料金に設定したコースが用意されている場合もあります。

朝日、毎日、読売の各新聞社の新聞記事データベースについては、各新聞社に直接お問合せください。

新聞三紙の発行元は、以下のとおりです。

発行 郵便番号 所在地 電話

朝日新聞社(東京本社)

104-8011 中央区築地5-3-2 (03)3545-0131(大代)

毎日新聞社(東京本社)

100-8051 千代田区一ツ橋1-1-1 (03)3212-0321(代)

読売新聞社

100-8055 千代田区大手町1-7-1 (03)3242-1111(大代)

なお、以下のホームページでも、各社の各種データベースについての情報が掲載されています。

朝日新聞記事データベース

<http://www.asahi.com/information/webdb.html>

毎日新聞「MSN毎日インタラクティブ」

<http://www.mainichi-msn.co.jp/>

*検索できるのは、MSN毎日インタラクティブに掲載された過去2か月分の記事です。

それ以前の記事については、商用データベースを利用して検索することができます。
読売新聞データベース

<http://www.yomiuri.co.jp/database/>

商用データベースには、各社の新聞記事が蓄積されていて、インターネットを利用して希望の記事を検索することができます。ただし、このサービスの利用には、会員登録と利用料が必要です。インターネットを利用した有料記事検索には、次のようなものがあります。

@ニフティ

http://www.nifty.com/common/list_news.htm

ジー・サーチ

<http://db.g-search.or.jp/>

日経テレコン 21

<http://www.nikkei.co.jp/telecom21/>

分類の手引き

～日本語本・総合雑誌の分類～

1. 「日本語本」一覧・「総合雑誌」一覧では、図書・記事を分野別に掲載しています。
2. 複数の分野にかかわっている図書・記事は、それぞれの分野に重ねて掲げることはせず、最も関係が深いと思われる一つの分野の中に掲げています。
3. 各分野（大分類）は、下位分類として中分類、更に小分類を持っている場合があります。それについての説明を、次のような形式で表示しました。

大分類 その分野についての解説

中分類（小分類）

4. 中分類・小分類の中には、2004年のデータには無いものもあります。
5. 分類は以下の通りです。

日本語一般 日本語全体にわたって、その特色や現状などについて述べたものです。

日本語の歴史 日本語の現在までの歴史的な歩みについて述べたものです。言葉のどの分野の歴史を扱っているかによって、更に分類をしています。

日本語一般の歴史、音声の歴史、文字の歴史、語彙の歴史、文法の歴史、文章・文体の歴史、方言の歴史、言葉と機械の歴史、コミュニケーションの歴史、マスコミュニケーションの歴史、国語教育の歴史、日本語教育の歴史、言語一般の歴史、辞書・辞典の歴史

音声 日本語の発音や、アクセント、イントネーションなどについて述べたものです。なお、日本各地の方言の音声に関しては、**方言** に分類しています。

文字 漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字といった文字や句読点・かっこなどの記号の性格、更にそれらの実際の使われ方について述べたものです。なお、漢字の読み・書き能力に関しては **コミュニケーション** に分類しています。

文字一般、漢字、かな、ローマ字、その他文字、記号、表記法、その他

語彙 単語の意味や語源、更に、新語・漢語・外来語、ことわざ、慣用句、人名・地名などの話題について述べたものです。なお、人名や地名の表記については、**文字** に分類しています。

言葉の意味、語源、新語・流行語・和語・漢語・外来語、ことわざ・慣用句・熟語、名づけ、固有名（固有名一般、人名、地名、その他）、その他

文法 語を組み合わせて文を構成する上での規則や、文中での語の役割などについて述べたものです。なお、敬語に関する話題は、**コミュニケーション** に分類しています。

文章・文体 文章の構成や様式、文章の種類などについて述べたものです。なお、文章を書くための技術的なことに関しては **コミュニケーション**、学校での作文・詩歌の創作などに関しては **国語教育** に分類しています。

方言 日本各地の方言の発音・単語・文法などについて述べたものです。
方言一般，各地の方言

言葉と機械 情報検索・音声認識など，コンピュータを使った日本語の情報処理について述べたものです。なお，インターネットやメールなど，電子メディアによるコミュニケーションに関する話題は コミュニケーション に分類しています。

コミュニケーション ここは大きく2つに分かれます。ひとつは，コミュニケーションの様々な側面について述べた「言葉と生活」，もうひとつは，敬語の使い方や文章の書き方など，よりよいコミュニケーションのための「言葉の使い方」です。

言葉と生活（言葉と生活一般，言葉と社会，談話，手話，言葉遊び，その他），言葉の使い方（言葉の使い方一般，敬語，話す，聞く，書く，読む，その他）

マスコミュニケーション 新聞・雑誌・テレビ・広告といったメディアでの日本語について述べたものです。

マスコミ一般，マスコミの用字・用語集

国語教育 小中高等学校の国語教育に関すること，乳幼児の言葉の発達に関することについて述べたものです。日本語本一覧では，学校現場だけにとどまらず，広く国民一般にかかわりがあると思われるものを取り上げています。

国語教育一般，朗読，教科書，その他

日本語教育 日本語を母語としない人に対する日本語の教育や，日本語の学習について述べたものです。

言語 世界の言語にかかわる問題や，日本語と他言語との比較，翻訳などについて述べたものです。

言語一般，日本語と他言語，翻訳

辞書・辞典 辞典について，その編集・選び方・エピソードなどを収めています。日本語本一覧には，国語辞典・漢和辞典など辞典そのものも収めています。

辞書をめぐって，国語辞典，固有名辞典，類語辞典，方言辞典，新語・外来語辞典，特殊語辞典，死語辞典，ことわざ・慣用句・熟語辞典，語源辞典，表現辞典，その他言葉辞典，漢和辞典

書評・紹介 言葉に関する本の書評や紹介などを，ここに集めています（総合雑誌・文芸雑誌・PR誌記事一覧のみ）。なお，実際のデータでは，どの分野の本についての書評・紹介であるのかわかるように示してあります。

付録 関連データの紹介

『国語年鑑』の御案内

国立国語研究所の編集する『国語年鑑』は、日本語に関する研究情報を集めたものです。1954年の創刊以来、毎年刊行を続け、日本語研究者にとっての基礎的な文献目録として利用されてきました。



また、基本図書として常備する公共図書館も増えてきました。この『日本語ブックレット2004』に収めた文献よりも、もう少し専門的なものを調べてみたいという方は、是非『国語年鑑』を御覧ください。

『国語年鑑』では、2003年版から、日本語研究の動向についての記述を新設したほか、コンピュータ上で利用可能なCD-ROMを添付するなど、利便性の向上に取り組んでいます。

A5判 上製函入り 556ページ

定価（本体7,700円＋税）

最新版：『国語年鑑 2005年版』の主な内容

主として、2004年1月1日～12月31日に発行された研究文献を収録しています。

第1部 動 向・・・ことばに関する動向を紹介しています。

「刊行図書の動向」「雑誌文献の動向」「総合雑誌記事の傾向」

「新聞記事に見る分野・話題の推移」

第2部 文 献・・・文献目録を収録しています。

「刊行図書一覧」「採録図書発行所一覧」「雑誌論文一覧」

「採録雑誌発行所一覧」「総合雑誌／特集・連載・対談目録」

第3部 名 簿・・・国語関係の個人・団体などの情報を一覧しています。

「国語関係者名簿」「各学会・関係諸団体一覧」

「学術団体・審議会等における関係者氏名」

索 引・・・「第2部 文献」に対する、著者名索引です。

付 録 CD-ROM

『国語年鑑』のホームページ

<http://www.kokken.go.jp/katsudo/kanko/nenkan.html>

御購入やバックナンバーに関するお問い合わせ先

大日本図書 書籍部（販売） 電話(03)3561-8679

<http://www.dainippon-tosho.co.jp/>

「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」の御案内

言語生活に関する情報の集まり

国立国語研究所が作成している「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」は、日本人の言語生活に関する情報を新聞記事の中から収集し、パソコン等で検索できるようにしたものです。

このデータベースは、国語研究所のホームページ上で公開していて、どなたでも自由に検索することができます（http://www.kokken.go.jp/katsudo/kenkyu_jyo/sinbun）。

目録（見出し）データベース

このデータベースは、国語研究所において1949年から収集蓄積されてきた「ことば」に関する新聞記事の一つひとつについて、掲載日・掲載紙名・見出しなどを収録し、ことばの研究に有用な分類情報を付加した「見出し（目録）データベース」です。

複数の検索語により記事を検索して、それがどの新聞の、いつの日付の、何面に、どのような見出しで掲載されていたかという情報を知ることができます。

なお、記事本文については、著作権上の事情により、国語研究所のホームページ上で公開することはできません。記事本文をお読みにになりたい場合には、公共の図書館等に収録されている縮刷版やマイクロフィルム等、または商用の新聞記事データベースを御利用ください。

多様な新聞からの蓄積

朝日新聞・毎日新聞・読売新聞の全国紙三紙（いずれも東京本社発行）のほか、日本経済新聞・産経新聞や、北海道新聞・西日本新聞・東京新聞などの地方紙、図書新聞や新聞協会報などの専門紙の記事も収録されています（1989年5月からは、朝日・毎日・読売の全国紙三紙のみ）。

50年以上のデータの蓄積

このデータベースには、1949年から50年以上のデータが収録されていて、ことばをめぐる状況の推移を探る上で、貴重な手がかりを得ることができます。

このブックレットで紹介したトピックについて、この50余年のデータの中にあるのかないのか、あるとすればどのような内容なのか、掲載記事や新聞によってその内容は同じなのか異なるのか、現在と比べてどのような違いがあるのかなど、調べてみてはいかがでしょうか。



詳細検索の画面



検索結果の画面

日付、掲載紙名、見出し、著者名、分類情報などといった項目ごとに条件を指定して検索することができます。

このほか、項目に関係なく、自由に検索語を入力する簡単検索を行うこともできます。